PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE

DELUXE マガジン

斉藤由貴

with love

いつもそばにいて…由貴



撮影／恋写ボーイ野村誠一

PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE

Yuki Saito

Photo by SEIICHI NOMURA



Skinship Magazine for Boys

DELUXE マガジン

講談社
定価1300円 Printed in Japan
雑誌 60651—15 ISBN4-06-101615-6(0)

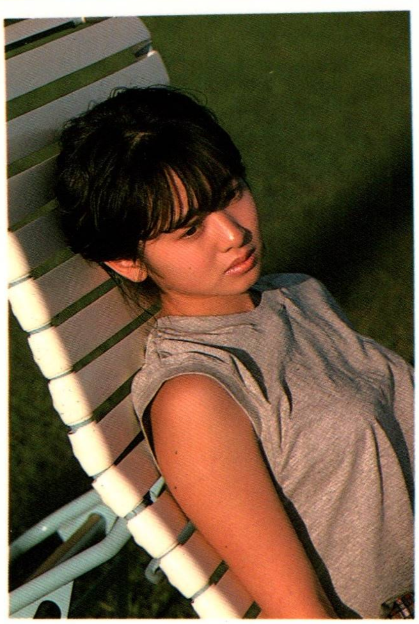
PHOTOGRAPHIC MAGAZINE 斉藤由貴

PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE

Yuki Saito



くじけそうになったらあなたの
あたたかい手でつつんでください、私を。いつまでも。



いまだ触れたことのない一つの
経験——。それはキスの味。

Design by PENCIL STUDIO

PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE
Yuki Saito



花一輪、あなたに渡してみたいのです。これが私の
すべてですよっていいながら。



こんなにせつなくさせるなんて
由貴、きみが夢にでてきたよ……。



とってもステキなことって人生のうち何回あるかしら。由貴の場合、その日その時を大切にしていきたいと思うの。だって1度しかない人生だもの、自分で納得がいくまでやってみたいと思うのです。デラマガとの出会いは由貴の一つのターニングポイントかもしれません。ただ現状に甘えない覚悟でいるつもりです。どうぞずーっと見守っていてくださいネ。

Photo by Seiichi Nomura

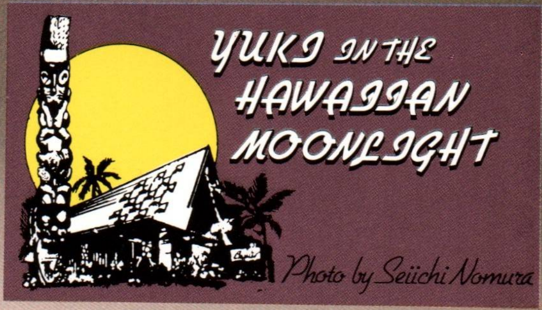


YUKI IN THE HAWAIIAN MOONLIGHT

●PERSONAL
文／伊地知寛江
ヘア・メイク／坂口等・小野口文子
スタイリスト／東野邦子・川辺千恵子
Design by PENCIL STUDIO







子供のころから父さんに叱られていたことがあります。それは由貴が左キキだったからなの。ものごころついた時からすでに左でいろいろやっていたから、しょうがないといえばしょうがないんですけどね。食事の時は、父さんの目にはいるでしょう。うまく右手がつかえないものだから知らず知らずのうちに左手を使っておハシを握っていると、パチンとたたかれちゃうのです。かわいそうでしょう。別に悪気があってやってるわけではないのだけれど、とにかくおハシだけは右手でもてるようになりました。左手はもちろん、得意なイラストをかく時に活躍するので〜す。

ドラマで〝野球狂の詩〟というのをやったのですが、その時のおもしろいお話があるんです。由貴がトレーニングのシーンでウンコラエッコラ、タイヤをひいているシーンを撮る時のことなんですけど、ディレクターの人が、「はい、今度はこっちからあっちへコンダラ引っぱっていって」といわれて、由貴おもわず、キョトンとしてしまいました。「なにを引っぱっていくのですか?」「コンダラだよ、コンダラ!!」ナンダラカンダラさっぱりわからなくて聞いたら、「巨人の星」の主題歌で〝おもいこんだ〜ら〜〟という歌を歌ってくれました。タイヤのことをいってたのです。マッタク!!

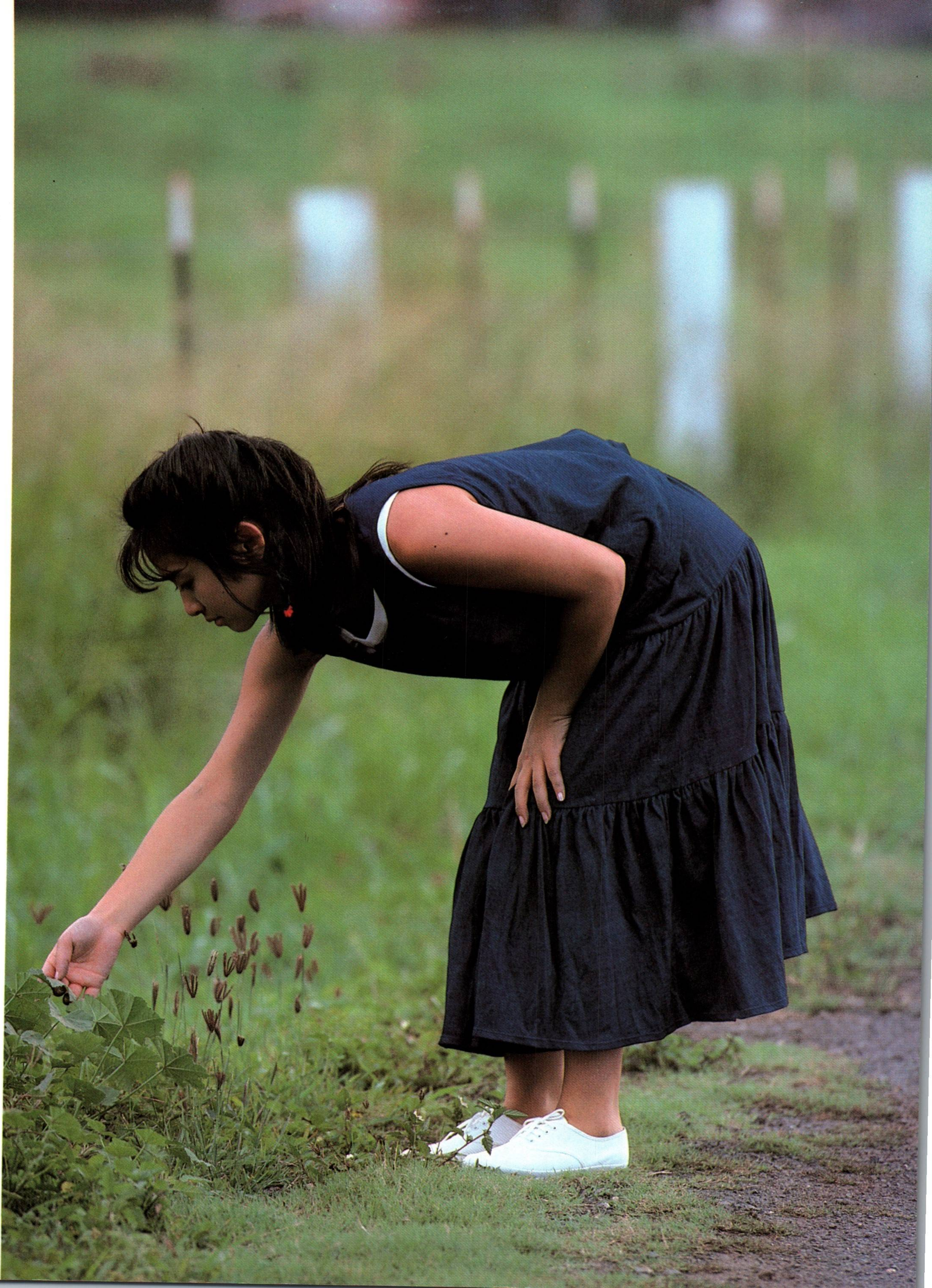


ハワイへ着いた時、飛行場のアツーイ熱気と、スタッフのあたたかい手が、由貴をむかえてくれました。アー、ここで撮影できるなんて、ナントすばらしいことなのだろう。白いレイを首にかけてもらい、おもわずニッコリしちゃったのです。

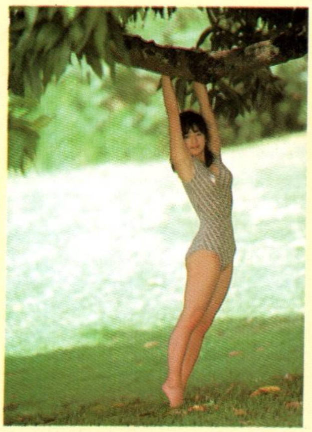
ハワイへは昔、来たことがあったけど、かなり都会化してて、まるで、ニューヨークかロスに来たみたいというのが最初の印象かな。ハワイは6年前に別れた友達がいたせいもあって、なつかしさとうれしさで始終ウキウキ気分だったのです。おっきな絵が飾られた教会も訪れました。なぜかしらうれしさで涙がこぼれちゃった。

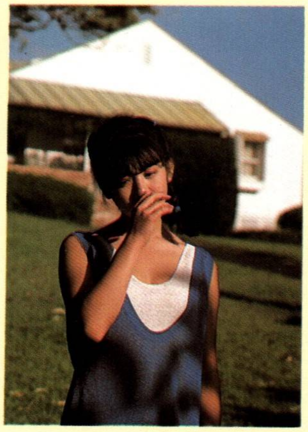












親友ってホントにいいなと思うことがあります。特に女のコの場合、恋愛談義に花をさかせる時とか、うまくさかなかった場合、友情の大切さというものをつくづく感じるものなのですよ。由貴がはじめて失恋した時もそうだったように。

高校のころ、好きな人がいて全身の力をふりしぼって告白したんだけど、なかずとばずのさびしい結末が電話でやってきたのです。ガチャンと切ったあとすぐに親友の声をききたくなって、「あのネ～、グスッ」。そして次の日でした。トイレにはいっていっしょに泣いてくれた思い出がつくれたのも、親友がいてくれたおかげなのだと思っています。

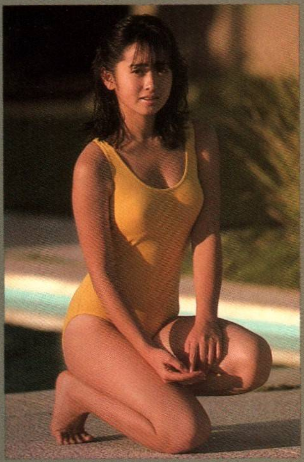
スポーツをやっている男のコっていいですね。とてもステキだと思います。陸上、野球、サッカー、ひたすら汗を流しながら、一生懸命に何かにうちこんでいる姿って見ていてホレボレするくらいいいですよね。女のコのことと か雑念が何もない時の顔って、男のコに限らず女のコでもステキだなと思うことがあります。

スポーツの観戦をしている時思うんですけど、たった1秒のために何年も走りつづける人、たった1点のために、寝る間もおしんで努力しつづける人、そういった人たちを見ると、自分の中にファイトの精神がみなぎってくるようです。由貴もガンバル!!

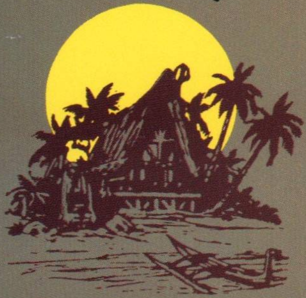


Photo by Seiichi Nomura





YUKI IN THE HAWAIIAN MOONLIGHT







授業中につきものなのがいねむりですねェ（こんなこというとおこられちゃうかな）。
由貴もたま～にやりました。顔の前にポンと本をたてて、先生のミラクル光線（視線）をさえぎるのです。なんとなくフワッとねむってしまうのですよね。
ホントは、バチッとお目々をひらいて大切な師の一言一言を耳にとどめおきたいのですが、夏の暑～い昼さがりとか、水泳のあとというのはいただけませんねェ。急に睡魔におそわれてしまうんです。そんな時頭の遠くの方でポコンと音がします（本で頭をポコンとやられた音なの）。すると由貴はモソーッと起きて、「スイマセーン」と答えるのです。

『不思議の国のアリス』ってなにかで読んだことあるでしょう。もしできることなら、あの世界にはいりこんでみたいんです。ヘンテコウサギや、スペードの兵隊にねらわれながらお城中をあちこち逃げまわって、おもしろいと思いません？できればそれが写真集になったりしてね。
お城とか船とか、中途半端はイヤだから、ゼーンブ本物を作っちゃうのです。それだけでもお金がかかりそう。不思議なうさぎさんも、ちゃ～んとおしゃべりできるようにしこんだりしてネ、本格的でしょう。
アリスの役はモチロン由貴なんだけど、いつか実現したいナ。

学生のころ、由貴は遅刻魔だったと思う。時間ギリギリのすべり込みセーフなのですよ。教室に先生がはいってくるのが8時40分なんだけど、由貴の場合はそのセトギワギリギリいっぱいまでが勝負なんですよね。危険いっぱい、ハラハラドキドキの毎朝でしたけど、慣れてくるうちにスリリングな行事として（大ゲサかな）恒例でしたね。それだったらば、もう少し早く起きればいいんでしょうけど、目覚しは遠くにありて思うもの――じゃないけど、眠っているとなぜかしら、ここちよい朝のサウンド・オブ・ミュージックになってしまうのです。そんな経験ワカルでしょう？





ファンレターの中でこういうお手紙がありました。「僕は今、電車の中にいます。これから学校に行くところです、なぜこんなレポート用紙で手紙を書いているかというと、たまたま電車のアミだなでみつけた少年マガジンに君が載っていたから、急にこうやって手紙を書いているのです」というファンレターなのですが、はじめ、レポート用紙だし文字もかなり揺れているから、アレッと思って読んだのですけど、とてもうれしかった。はずかしいけど、ニッコリほほえんでしまったのです。これからも応援してくださいね。







由貴がはじめてDELUXEマガジンに載った時、たくさんファンレターをいただきました。どうもありがとう。あの時とりあえず40名くらいの方に、自筆イラストの手書きレターを送ったのですが、大事に保管してくれていますか。この間キャンペーン先で、わざわざそのハガキを大事にセロファンで包んで持ってきたファンの人がいたんです。「ちゃんと大事にして持ってますよ」って。由貴はもう感激しちゃって思わず、グスッものでしたヨ、ホント。ファンレターの中には、水着にならないでくださいとか、ぬがないでくださいとかありますけど、皆さん安心してください、絶対ぬぎません。





YUKI IN THE HAWAIIAN MOONLIGHT

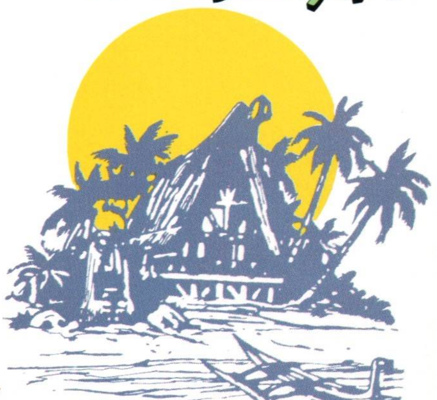
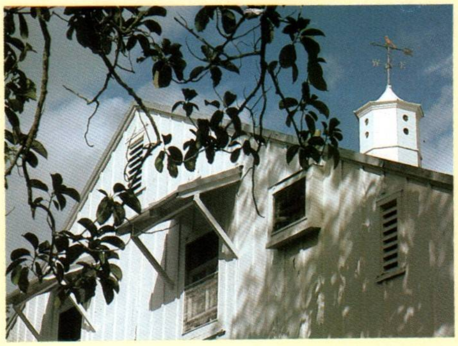


Photo by Seiichi Nomura









YUKI IN THE HAWAIIAN MOONLIGHT

Photo by Seiichi Nomura

もし昔、由貴が、あるお城のお姫様だったとしたら、ｉｆのことだけど、そうだったら、ひねもすワガママしてたでしょうね。本来ジーッとして、つれづれに、な～んてやってるタイプじゃないから、キット白馬にまたがったジャジャ馬姫でとおっていたかもしれないナァ。いつもどこに行ったかわからなくて、ジイヤがみけんにシワをよせながら大声で、〝ヒメ!!〟と叫んでいる姿が目にうかぶのですよ。

王子と乞食（こじき）の話があるけれど、由貴も衣服をかえて乞食を経験しているかもしれない。でもそうなったらやはりお城の生活がこいしくなるかも——ネ!!









高校の文化祭で、由貴のクラスはラブカップルをやったんですよ。テレビでよくやってるアレです。ボタンを押して、むかい合った男のコと女のコを結ぶランプがつくというものなんだけど、みんなであの手の込んだ装置をせっせこと手づくりしてガンバッちゃったのです。私も出たんですけどネ。てっきりボタン式だと思っていたらゼンゼン違っちゃってやり方がわからないから、ガチャガチャやってたら、みんなが〝ヴァー〟ともり上がっているではないですか。気づいてテーブルをみたら、ナント由貴のところのランプが——。儀式はモチロン、キス！ホッペにふれるぐらいの。

ケーキの思い出っていうと、あったあった、あれは高2のクリスマスの日だったんだけど、女のコ8人が由貴の家に集まってクリスマスパーティーをひらいたのネ。そういう時、女のコって必ずといっていいほど自分の作ったお菓子をもってくるんですよね。その時も、8人中ナント5人がケーキで、あとはドーナツとかババロアとかクッキーとか、テーブルの上がもうお菓子とケーキでうずまっちゃってるんですヨ。いくらケーキが好きといっても、5個というのは最高記録なんじゃないかな。由貴はシンプルな飾りをつけたチョコレートケーキ。今度また作ってあげたいナ!!

よく好きな人には何をしてもらいたいかって聞かれるけど、由貴の場合は、ただそばにいてくれるだけでいいって答えるの。ホントにそれだけで充分だと思うのよ。でもまわりの人は、いやそれだけじゃだめよ、プレゼントをたくさんしてくれる人とか、優しくなんでもいうことを聞いてくれる人じゃないと——とかいうけど、ホントに何にもいらないの。そりゃプレゼントしてもらったりしたらうれしいけど、できれば金のブレスレットがいいなァとか、ウフフ、そんなこといっちゃいけないナ、とにかく由貴のそばにズーッといてくれる人であれば、それだけで幸せなんだワ。








FOR YOUR SAFETY
WARNING
HAZARDOUS SURF
STRONG CURRENTS
SEE WATER SAFETY OFFICER AT TOWER







中一の時、仲のよかった、メグミとナオコと3人で、交換日記をはじめたんです。とはいうものの、ほとんど絵日記でしたね。3人とも絵が好きだったから、イラストとか詩とかを書いて、読んでもらうの。たまに〝今日から私の小説を連載します〟なんていって、長編物をつづったりしてたの。3人で交換日記をしているって、皆んな知ってたから、男のコがそのノートをとってラクガキするの、ヒドイでしょう? そんなこともあったけど、5～6冊は続いたかな。今でもそのノートをひらくとなつかしい昔の思い出がにおってきそう。女のコだけのヒ・ミ・ツの香りがネ

SIDE·5

●ハワイ編



いつもそばにいて…由貴

私はひとりポツンと波うちぎわを歩いています。小さな波たちが足もとを追いかけるように、そして逃げていくかのように忙しく砂を運んでいきます。小さな貝がらたちは今度は自分が波に乗る番かなと待ちかまえているのです。淡く小さなサクラ貝。

好きな人の名前を砂に書き終わらないうちに波がはこんでいってしまう。なんてイジワルな波たちなのでしょう。それとも私がノロマなのかしら。何度も何度も書いてはみるけれど、ハートの中の名はいつまでたっても完成しない。このまま終わってしまうのかしら？いいえ、だって何も始まってもいないのに。砂に書いたラブレター、いつまでもブロークンハートのままで夕日に照らされていたみたい。

Photo by SEIICHI NOMURA

YUKI MEMORY
●CFグラフィティ

ドラマチックな由貴が好き！

ＤＸマガジン№.9でデビューするやいなや、由貴にはＣＭへの出演依頼が殺到した。発売の３週間後には明星食品の「青春という名のラーメン」のＣＭへの出演が決定し、すぐに撮影が始まった。

雑誌をめくると誘惑したての由貴がいた。

ありとあらゆる雑誌に誘惑したての由貴がとび出してきた。もうこのせつなさがたまんなくって、ほおずりするラーメンのかわりになりたいと思ったのは君だけじゃないかもよ！













「ワアッ、このいいコはだれだ！」と全国で大評判になったＴＶ・ＣＭ。由貴のブラウン管への初登場も、まさにドラマチックといえるものだった。



▲暗いバックに、雪の妖精のような由貴がピッタリ。



▲こんな風に薦められたら、だれだって食べたくなる。

最新ＣＭはキリッと剣道着で決めた。

明星食品の関係者の人もＣＭの大反響に大喜びで、新製品のＣＭもすべて由貴でＧＯ！これは白い剣道着と赤いハチマキがピッタリの"努力モチ"のＣＭのシーン。







●神父さんも道路工事の人も由貴に誘惑されたい!?

いろんなパターンのＣＭが放映された。道路工事の人も、神父さんも、由貴にぶつかる学生のコも、「誘惑しても、いいですか」の由貴の声に、思わずメロメロ。



Yuki Saito









マガジンポスターコレクション

デビュー以来の全ポスターを紹介！

MISSマガジン・グランプリでデビューしてからまだ半年あまりなのに、由貴はもう何度もマガジン関係のポスターに登場している。デビューのときは少しポッチャリしていた由貴の顔が、どんどんシャープになっていくのがよくわかるネ。



▲同じくデラマガNo.9の電車中吊り用ポスター。通学中の電車の中でボーッと見とれてしまったコが多かった。



▶由貴が衝動的に巻頭カラー46ページの大特集で登場し、アチコチで話題を巻き起こしたDXマガジンNo.9の書店宣伝用ポスター。



▲DXマガジンNo.11の電車中吊り用ポスター。もうこのころには由貴の名前もしっかり定着してきた。



▶爆発的売れ行きのDXマガジンNo.12の書店用宣伝ポスター。由貴のアゴのあたりの線がよりシャープになりつつあるのにご注目！



◀少年マガジン・スペシャルの宣伝用ポスター。漫画家の人にも由貴狂いがいっぱい。



レコードポスターコレクション

〝卒業〟の宣伝物もワンサカ！

2月21日に〝卒業〟でデビューした由貴のためにキャニオンレコードも大宣伝でバックアップ。レコード店の店頭も、ポスターや実物等身大立て看板と、由貴の宣伝物でいっぱいになった。




◀レコード店の人も泣いて喜んだという由貴の実物等身大立て看板。デラマガ編集部でも大人気。



▲ご存じ〝卒業〟のジャケット写真。もう買ってくれたかな？



▲レコード店などでのプレゼント用の由貴シール。もらった人は幸せ者。



▲レコード店やマスコミに配られた事前告知用のミニポスター。

▼全マスコミに配られた年賀状。





▲「その思い…ください」なんていわれてみたいね。


▲由貴には、淡い色のシックなファッションが似合う。



▲この愛らしい笑顔に、マスコミ関係者もまいってしまうのだ。

YUKI MEMORY
撮影アルバム

HAWAII

'85年正月のハワイの空気はやさしく、光はおだやかだった。

デラマガ12号の巻頭カラーとこの PHOTO-GRAPHIC・MAGAZINEの撮影のためにハワイを訪れた。撮影にはハワイの高級住宅を2日間借り切り、さらにロケバスでオアフ全島を駆け巡った。夕日を求めてサンセットビーチに向かったり、緑を求めてハワイの牧場にロケバスを乗り入れたり、朝日の昇る時間から、夕日の落ちるまでへとへとになっての撮影だった。ハードスケジュールだったが、ガンバリやの由貴はいっさいネをあげなかった。



▲撮影中に横から盗み撮り！



▲これが由貴の足なんだよ。



▲食事にでかけるので由貴の泊まっているホテルに迎えに行ったときに連続的にパチリ、パチリ。



▲ヘア・メイクのヒトに丁寧にお化粧をしてもらい、さて撮影！





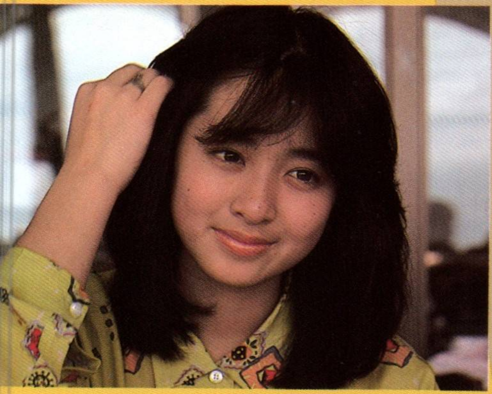
▲昼食にでかけたレストランの前でニッコリと記念撮影だ。



◀この豊かな表情と豊かな姿態とがぼくらを魅きつけずにはおかない。







▲ふと見せたやさしい表情もいいね。





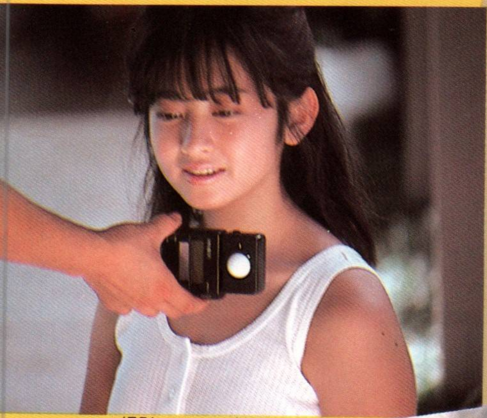
▲海岸などの着かえるところのない場所では、こんなふうに着かえるのだよ。



▲エキスポランド内の水族館の水槽の前で記念写真。



▲巨大なジンベエザメの標本の前でパチリ。この驚いたような表情を見てごらん。



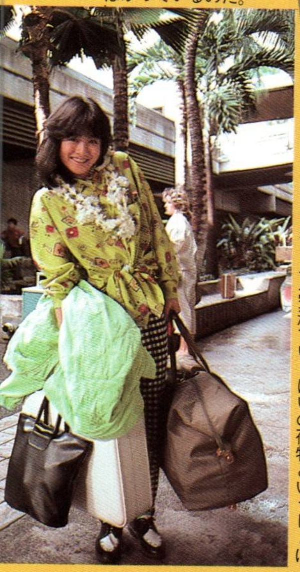
▲撮影にはたえず光をはかっているのだ。







▲またまたふざけたそぶりを見せるヒョーキン由貴だ。



◀ホノルル空港でいっぱいの荷物といっしょに。





◀こんな淋しそうな表情を見せる由貴に胸は高鳴るね。



▲望遠レンズを反対から見たって何にも見えないよ。でも、こうしたかわいい由貴にまた魅かれるね。

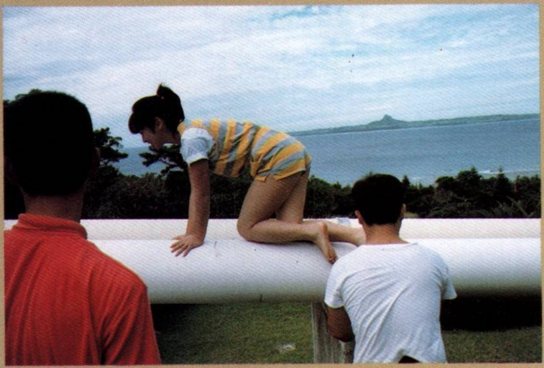
YUKI MEMORY

グアム、伊豆、沖縄、ハワイと南の光を求めて撮影にでかけた。そんななかで、なにげなくキヤノンオートボーイでとらえた由貴の気どりのない㊙スナップ写真を大公開してしまうのだよ。

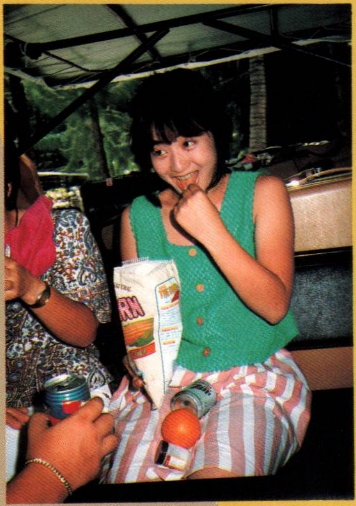
撮影アルバム

これが撮影中に





▲こんな太いパイプのうえに乗っかって撮影もしたのだ。



▲ついついお菓子に手がでてしまう由貴だ。



▲撮影の移動中についふざけてVサイン。



▲水着姿の由貴を見られるのはマガジンだけなんだよ。

OKINAWA

撮影は沖縄のエキスポランド公園の緑のなかで行った。

由貴が沖縄の那覇空港に着いた時、どしゃぶりの雨に那覇の街は煙っていた。こんな雨のなかをタクシーで走ること3時間、エキスポランド公園が撮影現場だった。翌日はウソのように沖縄の空は晴れていた。





◀エキスポランドの海岸は真っ白な砂であふれていた。

Yuki Saito

見せた由貴の素顔だ！

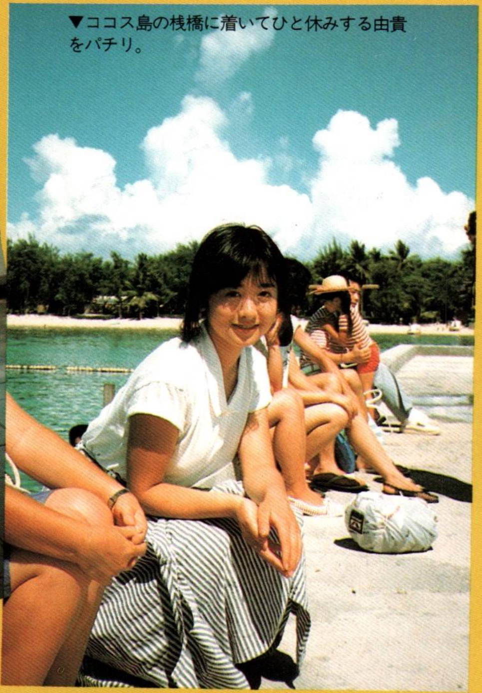
GUAM

初めて訪れたグアムの青い海と空とヤシの木は由貴を大歓迎したのだった！

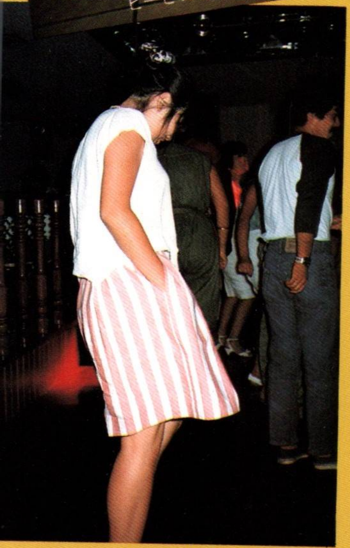
グアム本島の港メリンからモーターボートで10分ばかりのリゾート島、ココスが撮影の場所だった。快速モーターボートが波しぶきをあげて疾走し、由貴の髪を濡らしても、楽しい気分だった。ヤシの木が茂り、巨大なプールとなった海ではしゃぐ由貴は、まぶしすぎるほどだった。イタズラ気分で海水をスタッフにかけたり、記念撮影をしたり、減量していたのに、ついつい食事が進んでしまったりと由貴には忘れられないロケとなった。



▲いかにも南の島のホテルのロビーといった籐イスに腰かけて。



▼ココス島の桟橋に着いてひと休みする由貴をパチリ。



▲すべての撮影が終わり、翌日は帰国という夜、ディスコに。



◀ココスのフランス料理レストランのウエートレスが美人だったので、イタズラにパチリ。



◀部屋のなかでちょっと疲れた表情を見せる由貴。



▲グアムの夕日を浴びて波とたわむれる由貴。



◀夜、ココスのコテージでトランプ遊びをする。



▲食後のデザートにケーキを楽しむ由貴。



▶84年8月の由貴はまだどこか幼さを残した表情をしていた。

YUKI MEMORY

マガジンはこん

●'84年8月から'85年2月の6か月の間にマガジンはなんと由貴を7回も特集したのだった。それだけ由貴の登場は鮮烈だったともいえる。

●デラマガNo.11でもカラー10ページで特集した

読者からの手紙を読んでいると、〝こんなにせつなくさせるなんて、由貴、きみが夢にでてきたよ……〟のコピーがせつせつと伝わってくるようだった。由貴はみんなを魅了してやまなかった。



▲この哀愁を含んだアップの表情もたまらなくいい。

●デラマガNo.10の巻末特集だ

こうした渋いムードの建物をバックにした撮影も、ぐっとフンイキがもりあがる由貴だった。


▲この撮影は伊豆山中に残る江戸時代の庄屋屋敷で行われたのだ。



●われらが由貴ちゃんのレコードデビュー

「われらが由貴ちゃんのレコードよ売れてくれ」と願いをこめた少年マガジンの表紙と巻頭グラフだったよ。



▲珍しくも由貴の晴れ着の表紙だ。





▲ハワイの夕焼けのなかで見せた由貴の表情もなんともいえずいいのだ。

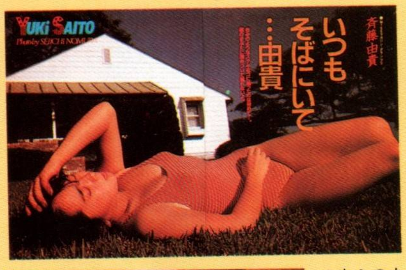


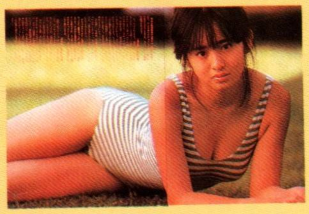




●あっという間に書店の店先から消えたデラマガNo.12だ！

由貴をこんな大ページで大特集を組めるのはデラマガだけ。由貴、由貴の大ラブコールに再度応えての、表紙から巻頭大特集をデラマガは組んだのだった。

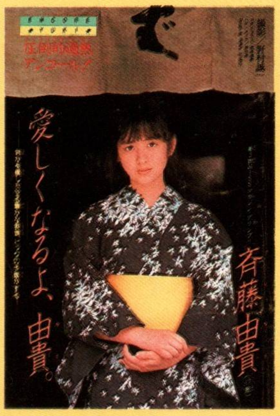





▲キミのようなステキなコに逢ったのは初めて…。僕のまぶたに焼きついて離れないよと、そんなイメージでハワイで撮影したのだった。焼きついて離れなくなってしまったのだよね、ホントに。

な特集をした

▶由貴のよさを見つけだすにはグアムでの撮影だけでなく情緒ある写真も必要だと、鎌倉で撮影した。



●あじさい寺のムードにもぴったりとあう由貴だった

鎌倉の街をそぞろ歩きする観光客に混じっての撮影だった。だれも由貴を知らなかったけれど、〝ダレ、あのコ、ダレ、キレイね〞の囁(ささや)きがきこえたのだ。



●巻頭46ページも大特集したデラマガ№9だった

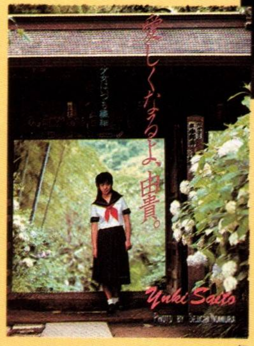
デラマガ№9の巻頭46ページは、編集部でも大冒険だった。まったく無名の女のコを大ページに載せる、これは危険な賭(か)けだったが、こんなコはそうザラにはいないと確信をもち、大賭けに賭けた！〝まぶしすぎるよ、由貴〞のコピーにぴったりの由貴は大反響を呼んだのだった。





▲巻頭ページの初めの1ページは、まさにまぶしすぎるページだった！





▲鎌倉での撮影の第1歩は古いそば屋の店先だった。

こんなコそうザラにはいないと確信をもって放ったデラマガ№9は大反響、大反響だったのだ！



▲編集部には由貴ちゃんに質問が殺到したのだった。その質問に丁寧に答えるコーナーも作った。

●あまりの反響にすぐさま少年マガジンで特集を組んだ

5000通以上のファンレターが殺到し、大驚愕(きょうがく)した。ビッグＣＦ出演の話も降るようにきた。雑誌もきた。大混乱をきたした編集部では、由貴ちゃんを守ってあげたいと思った。そんな思いがタイトルに出ている。いまから思うとね、〝守ってあげたい〞だものね。







◀少年マガジンでも、再び由貴を巻頭で大特集したのだった。

Yuki Saito

YUKI MEMORY

SIDE・4

●YUKI MEMORY

大学の英文科に進学しようと決めていたごく普通の女のコだった。

MISSマガジン

これが由貴ちゃんデビューのきっかけ！

Yuki Saito



◀これがすべてを決めた1枚の写真

'84年5月、由貴の弟が近所の公園で撮影した写真を週刊少年マガジン編集部に送ってきた。その時はMISSマガジン応募4516通のうちのたった1枚にすぎなかった。

▼第3回MISSマガジン10人ノミネート

第1回MISSマガジンの伊藤麻衣子以来、スターの登竜門になりつつあったこのコンテストには、4516人の女のコたちが応募してきた。そして由貴は6番目にいた。





◀ロケに行く前にカメラテスト

読者の圧倒的な投票数により第3回MISSマガジン・グランプリに決定した直後に、少年マガジン、DELUXEマガジンの表紙とグラフ撮影のためにグアム島に飛んだのだ。



▼CF、レコード、雑誌、テレビと各メディアに大反響をおこした表紙だった！



あっという間にMISSマガジン・グランプリに決まり、プロの撮影スタッフとグアムに行ったのだが、ごくごく普通のイラストと映画が好きな女子高生だった由貴には、最初、何が起きたのか、何が起きるのか、よく分からずに、緊張の連続だったようだ。その緊張感が逆にいい写真を生んだ。





▲〝息がとまるほど好きだから、こっちに来ておくれ〟とコピーした由貴の巻頭は各界に大反響を巻きおこしたのだ。



YUKI WORLD



脇役（わきやく）でも存在感のあるユニークな役をやりたいですね

夢

●とにかく女優になりたいのです

スーパーウーマンになった由貴が、真っ赤なマントをひるがえしながら窓から飛びたつんです、パ〜ッとネ。ところがどういうわけか、オイルの切れたエンジンみたいに、どんどん力がなくなっておっこちちゃうんです。そして、まっさかさまに、林の中にズドーンと。——何度もみた夢の話です。

とにかくよく夢をみていました。学校でイヤなことがあると、それが夢になって出てきたり、読んだ小説が、まるごとそのまま出てきたりするんですが、なぜか、どれもマンガチックなんですよねェ。友達の男のコの目が少女マンガに出てくるような、星がいくつもちらばっている目だったり、ディズニーのキャラクターが出てきたり、本当にメルヘンの世界へ迷い込んじゃったみたいな夢ですねェ。

空を飛ぶ夢が中心だったような気がします。というのも、子供のころ、よくお母さんに、「空をどうやったら飛べるの？」としつこくきくものだから、「大人になったら飛べるようになるのよ」という返事を、本当に信じていたのです。それくらい空を飛べたらという願望がつよかったですね。夢ってホントに正直な心のビジョンだと思います。だって自分で気づかないうちに、潜在意識となって、いずれ現れるんですから。

将来の夢は？　ってよく聞かれていましたけど、由貴の場合は、その時々によってかなり違ってくるんですよねェ。最初スチュワーデス、そしてマンガ家、雑誌の編集長等々。



そして今は女優になりたいんです。〝サウンド・オブ・ミュージック〟って見たことありますか？　かなり昔の映画でジュリー・アンドリュースが主演しているんですが、ミュージカル映画なのです。そこに出てくる三女のブリジッタの役がやってみたいなァ。とってもかわゆい女のコなんだけど、おしゃまさんでプライドの高いところが、またいいんですよねェ。あの映画を見て以来、由貴の潜在意識にしっかり、女優になりたいという意識が芽ばえはじめました。そして今、そのチャンスがやってきているのです。

テレビドラマに出て感じたことは、自分の想像しているものを表面に出すことって、エラク大変な作業で、ましてやそれを、他人に伝えるなんて、ハタでみているよりたやすくはないんだと思いました。まだ、ドラマは二つしか経験していないけど、勉強することがいっぱいありそう——。ガンバラなくてはネ。

主役でなくて、個性のある脇役がいいですねェ。例えば、三角関係のもつれから、彼を殺して、かえり血を浴びたまま、逃げていくとかね。ちょっと過激かな？　それと、バカになった役もしてみたい。少しは、ひょうきんなこともやらないと、勉強にならないんじゃないのかな〜、なんていうのはまだ早いかもネ。

2月21日にレコードデビューしたんですがいずれはコンサートもできたらいいですね。フツーよりはかなりかわったコンサートで、会場がディスコになったり、仮面舞踏会に変わったり、そんなコンサートがあったらおもしろいでしょうね。由貴は悪魔に変身して、優しい恋の曲をうたうのです。ウフッ、変わっているでしょう。そんなかんじで、どこにもない、由貴だけの手づくりのコンサートを作ってみたいですね。

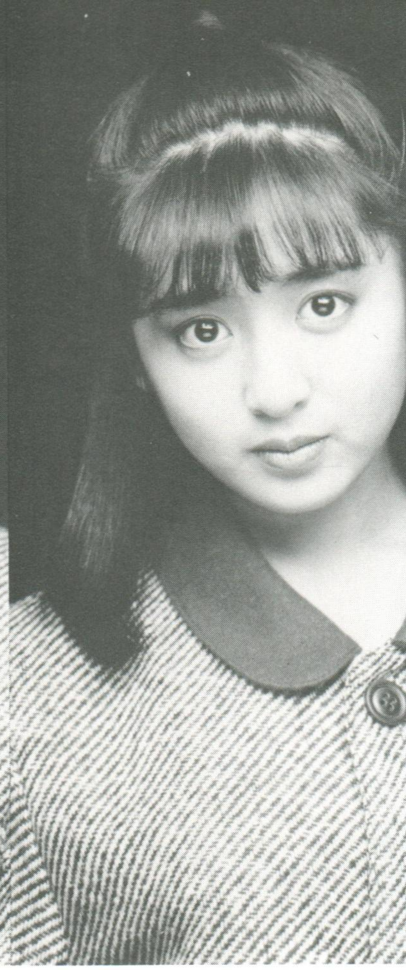
女のコのユメの一つに、結婚があります。白いウエディングドレスを着て、バージンロードを歩いてみたい。愛する人の帰りを待ちながら、湯気の立ち上るキッチンで、お料理を作ってみたい、と考えるけど、今の由貴には、女優になることが精いっぱいの望みで、それ以外は、なんにも考えられないんですよね。

YUKI WORLD

ラブ・ストーリー

●高2の時、とても好きな人がいた由貴。さわやかなうえヒョーキンな性格な男のコだった。楽しくせつない気分の波に襲われた由貴のハートは乱れ……そして、その後の結末は？







てよりは、ブラザー感覚で好意をよせていたので、そのことを知っても、あまり動揺はしなかったと思うんです。だけどちょっぴり悔しかったのかな？

由貴のかくイラストは必ずといっていいほどどこか冷たさをもった、カッコイイ男の人なんですよね。優しいタイプの男のコってほとんどかいたことがないんですよ。今考えても不思議だナァ。

●好きじゃなくなるまで待ってちゃいけない？

高2の時、同じクラスの男のコなんですけど、とても好きな人がいたんです。その人は陸上部にはいってて、とてもさわやかな、それでいてちょっぴりヒョーキンな性格でした。

はじめ見た時は、イイナァぐらいのものだったんですが、その人が陸上で汗を流している姿をたまたま見て、それからググーンと由貴の中の愛情バロメーターが上がってきたのです。陸上というと、たった1人の孤独なスポーツでしょ。ひたすら記録にむかってたった1人で立ち向かうといった姿が、とても印象的だったのです。男のコがスポーツやっている時の顔って、とってもステキだと思うんですヨ。ひとつのことに集中して、他のことがいっさい雑念としてはいってこないという姿はとても魅力ある光景ですよね。

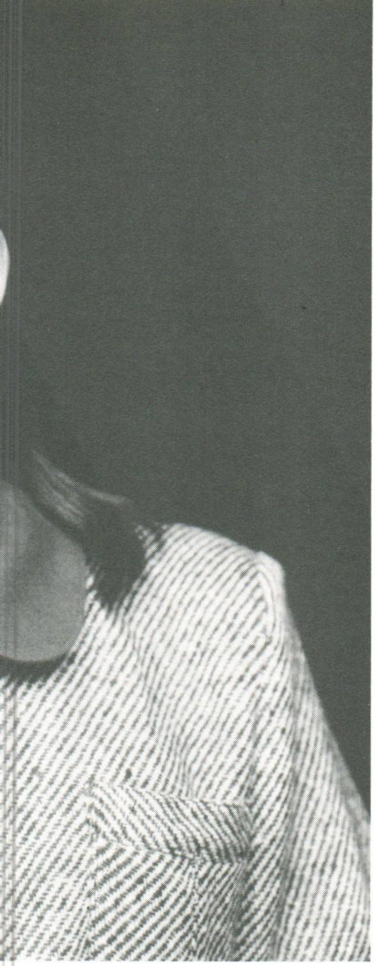
そしてもうひとつ、その人のよさというのは、たえずヒョーキンやってても縁の下の力もちなんですよね。表にたってひけらかすのではなくて、たえず裏にまわって、力を貸す人だった気がします。その辺のアンバランスさが、またまた、イイナァと思っていました。

人を好きになると、どうしようもないくらいうれしい時と、せつなくて胸が苦しくなる時が、波のように交互にやってくるんですよね。由貴も例にもれず、その気分を味わっていました。それに気づいた友人が、手助けしてくれて、ある日とうとういってしまったのです。

休み時間に、たまたま、私たちは3人ぐらいで立ち話をしていたんですが、そこをその人が通りかかったのです。すると私の友人がとっさに〝ホラ〟と勢いをつけてくれたんですが、とても勇気が出せなくて、うつむいたまま一言、「好きなんだけど」といって走ってもどってきました。彼のソバにあった赤い公衆電話がヤケに目にやきついて離れなかった。ただその時、その人は、ア然とした顔をしていましたね。そのうち10日ぐらい過ぎた日、突然、その人から電話があったのです。〝好きな人がいるからゴメンネ〟。由貴は、あまりのショックと悲しさから、とても未練がましいことをいっちゃったんです。「じゃあ、好きでなくなるまで待ってちゃいけない？」といいながら、電話を切りたくなかったんです。でもそのうちに、カラ元気をよそおってこういいました。「ガンバッテネ、私、もう大丈夫だから気にしないで、じゃあねェ」。ガチャンと置いた受話器を持つ手がめいっぱい涙でぬれていたんです。そしてすぐ友人に電話しました。

翌日、その友人がロウカで会うなり、由貴のそばによってきて、「昨日の由貴からの電話で、なんていったらいいかわからなくていろいろ迷ったけど、あの電話を切ったあとで、かわいそうで泣いちゃった」と泣き出しちゃったんです。それを見てて、また、由貴の目にも涙ただひたすら涙でしたね。その後もゴクフツーにしていたけど、それが由貴の精いっぱいつっぱれることだったと思うの。といいながらも、やっぱり顔があったりとか、その人のウワサを聞くたびに、胸の奥がキューンといたむのがわかりました。結局高3になる時まで、そのいたみは消えませんでしたけれどもね。夜、姉さんとそのことを話しながら、でも自分の気持ちを打ち明けてよかったんじゃないかなとアドバイスされて、少しは、落ち着いたようでした。ただひとつ、この件でうれしく思ったのは、友人がいっしょになって、ワーワー泣いてくれたことでした。その時、本当に友達って有り難いし、大切だなと感じましたよ。

現在は、仕事に熱中しているから、好きな人というのはいないけど、今度、好きになったらステキなラブ・ストーリーにしたいナッ。





いろんな恋の物語が由貴にはありました。初めて明かすラブ・ストーリー

●初恋のお兄さんは今メキシコの空の下

これが由貴の初恋といえるのかどうか、とにかく兄さんみたいに慕っていた人なんですけど、小学校の幼なじみなんですよね、ひとつ年上の大ちゃんという男のコ。

小学校にまだはいる前のころに教会で知りあったんですけど、はじめひとつ上だとは思いませんでしたね。というのも、かなりしっかりしていたし、常に由貴の悩みごとなんかも聞いてもらったりしていたので、三つぐらいは上だと感じていました。幼なじみで、よくいっしょに遊びに行ったり、ケンカしたりもしていましたけど、教会での大ちゃんは、大人びてみえましたね。

小さいころからすべていっしょだったから、兄弟のようにも思ったことがあったけど、だんだんと、好意をもつようになった自分を知った時、なんだかはずかしい気がして、それからは、あまりケンカもしなくなったような気がします。

「大ちゃん、好きなんだけど……」と何回も声に出していおうかと思ったことがあったけど、それもできなくて、ただただお祈りするばっかり。いつか神様が、この気持ちを大ちゃんに伝えてくれるんじゃないだろうかと思いながら一生懸命お願いしたのです。それなのに—。

去年の春、突然だったんだけれども、急に大ちゃんが、メキシコへ留学するという話を聞いた時は、もうショックでしたねェ。聞いてすぐに大ちゃんに確かめたら、「うん、勉強してくるから」という言葉がかえってきました。知ってる人みんなで空港までお見送りしたんですけど、これで大ちゃんとも会えなくなっちゃうんだと思うと、今までの思いがイッペンにこみあげてきて、思わず大ちゃんに抱きついて泣いちゃったのです。泣きはれた重ったい目で、大ちゃんの乗った飛行機が飛んでいくのを見た時、肉親が離れていってしまうようでとても寂しかった。今ごろ大ちゃんはメキシコの空の下でガンバッてると思います。

●12歳の交通事故の思い出

由貴が12歳のころ、友達の家に遊びに行った帰りの出来事なんですけどね。よくあるパターンなんですが、横断歩道がはるかかなたにあったものだから、"車道を横切っちゃえ"とばかりに手前のトラックの後からとび出しちゃったのです。よく確認したつもりだったんですが、運が悪いことに、タクシーにはねられたんですよね。道の端っこまでとばされちゃって、気がついて立ち上がろうとしたら、腰から足にかけて激痛が走ったのです。腰に近いところの足のホネを折っちゃってたんですけど、とにかく身動きとれずに即入院。

たいくつな毎日の中で、お見舞いにきてくれることだけが、うれしい毎日でした。特にとても好きだった九つ年上のお兄さんが来てくれた時は、いつまでもそばにいてほしかったですね。そのお兄さんはお見舞いのたびに、オレンジ色のキャンデー、オレンジ色のリップクリーム、やはりオレンジ色のバッグとか、とにかくオレンジずくめだったんです。だから由貴もその時からオレンジ色が好きになりました。そのお兄さんも教会で知りあったんですけど、とても優しい人で、由貴のお見舞いに来てくれた時は、1時間以上も、いろいろお話ししてくれたのです。教会の話、勉強の話、そして恋の話……。由貴にとっては、どれもおもしろくて、時間よ止まれの気分でしたね。

ところが残念なことに、そのお兄さんは由貴の姉さんを好きだったのです。しかたないといえば、それまでなんだけど、男の人とし

YUKI WORLD

占い

●知ってた？　由貴のこんなとこ！



愛する人には、とことん

手相

愛する人には、つくすタイプの良妻型

★生命線

すっきり伸びた生命線が、大きなアーチを描いているのは、心身、共に健康的な証拠である。生命力旺盛で、たとえ苦境にたたされてものりこえるだけのパワーをそなえている。また、金星丘の豊かさは人気のよさを示す。

★運命線

まだ、うすく線をひいている程度だが、先のほうが二つに分かれているところから、40歳ぐらいのところで二者択一を迫られる可能性がある。ただ家庭にはいっても仕事をしてもやっていける能力を十分にもち合わせている。

★感情線

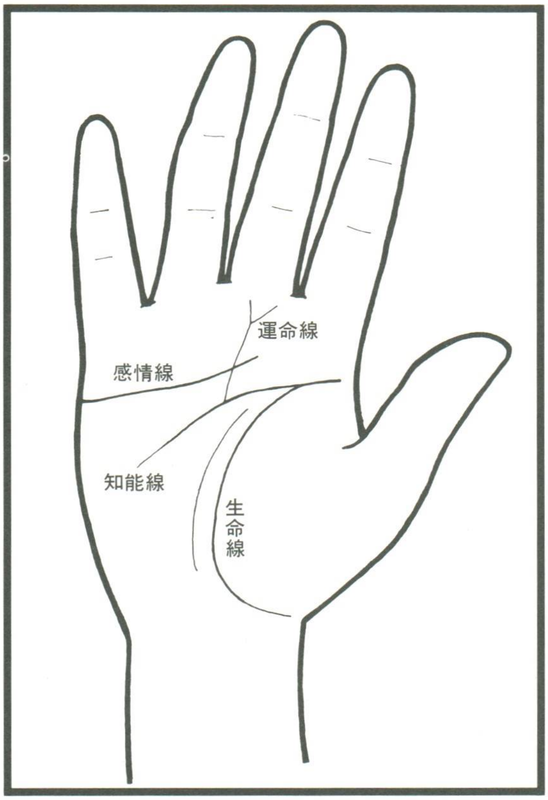
感情線が中指と人さし指の間に向かうのは献身的なところがある。愛する人には、とことんつくすタイプで、それによって喜びを感じるところがある。恋人というよりは、良妻タイプなので、恋愛をしている期間よりも、結婚して、幸せになる手相である。また非常に慎重なところがあるかと思うと、急に行動的になったりして、周りをおどろかせることがある。全体的にみて、情感あふれるタイプなので女優業にはヒジョーにむいている。

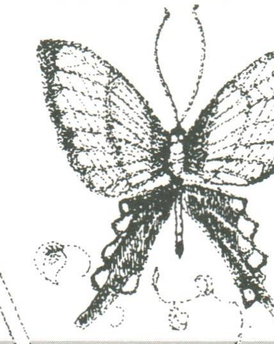
★知能線

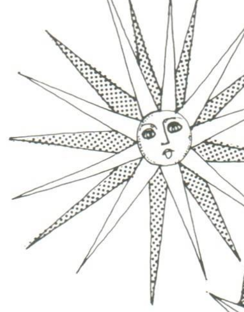
直感力、想像力は抜群で、何もないものから、常に新しいものを生みだす力に優れている。また、ロマンチックな面があり、恋におぼれると、他のことが手につかなくなったりもする。恋をしても、冷静に！

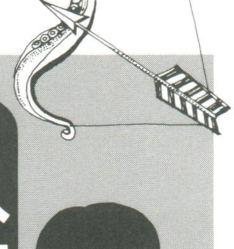
★小指

指全体が、人さし指にかたよっているところからみて、依頼心が強い。小指が薬指の第一関節より少し長めなので、将来結婚して子供をもった場合、なんらかの形で子供に助けられ、よき協力者になってくれる。









人相

輪郭が鋭角ではなく、丸みをおびながら、しかもアゴがしっかりしているのは、経済運および仕事運が、ヒジョーにいい方向へ進みやすい。目も丸く大きくて瞳が光っているところから、性格も温和で人づきあいのよさを表している。特に眉毛の濃さは、意志力の強さを示し、たやすく妥協しない信念をもっている。ただしガンコな面も。鼻と口の位置関係からしても人気運は絶大なるもので、これは永遠についてまわる人気運の強さを示す。



血液型

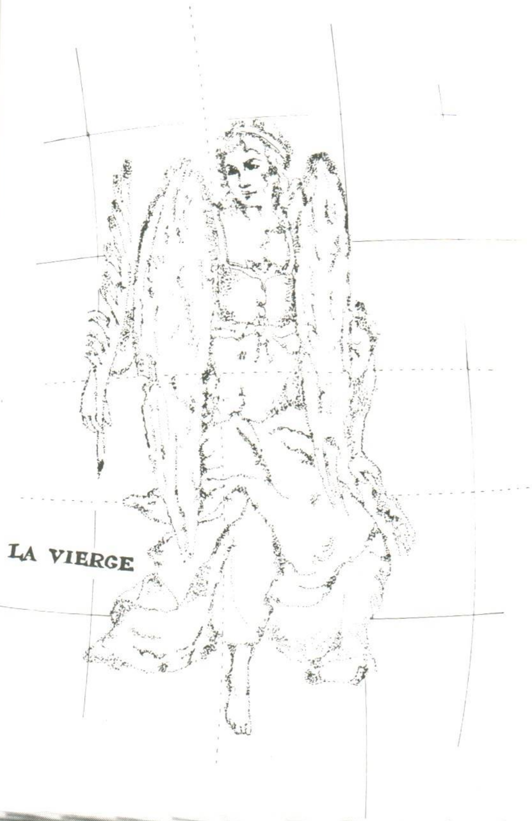
B型の性格は、明るくて気さくで話題の豊富な人気もの。ただしあまりに開放的すぎるため、たやすく人を信じてしまい、だまされてしまう。人に調子をあわせるのが苦手で、周囲の人と、ぶつかりあうことが多い。ものごとをストレートに表現してしまうので相手を傷つけるのもしばしば。好奇心旺盛で何でもやってみようというマルチ人間的なところがあり、独創性にかけては、他の血液型に比べ、群をぬいている。

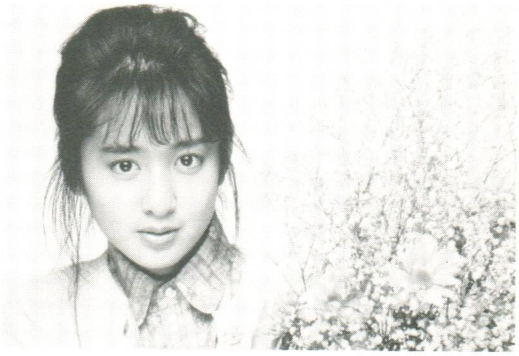


つくすタイプの由貴は良妻型だね！

星占い

9月10日の乙女座が心ひかれる男性は？





●文筆活動、作詞、ディスクジョッキーなど、個性を発揮できる芸術的な仕事が最適！

★総合運

非常に感受性の強い感覚型の人間だ。そのため、常に相手のことに気を配り、相手のいおうとすることや、行動をすばやく察知することができる。

自分の考えをうまく表現する能力にも優れているのだが、時として遠慮がちになってしまい、思ったことの半分も才能を発揮できなくなることもある。

★仕事運

環境にたやすく順応できる特性をもち、豊かな創造力を生かした仕事に適しているので、芸術的な活動に向いている。文筆活動、作詞、ディスクジョッキーなど、個性を発揮できる仕事が最適。また、だれとでも仲よく親しくなれ、人をまとめるのがうまいので、プロダクションの経営等にも向いているのだ。

これから彼女が、より実力を発揮して成功の基礎作りができるチャンスがやってくるのは、今年ではなく、来年の7月～8月だ。期待して見守ってやろう。

★恋愛・結婚運

彼女が心ひかれる男性は、陽気で男らしく、そしてカッコいい人だ。常に彼女をリードしてくれる男性がピッタリ。多かれ少なかれ年上の人と縁がありそうだ。

彼女が結婚にゴールインできるのは、4年後より先になりそう。



四柱推命

人気運グングン上昇中 仕事で実力を発揮！



●61年の2月から8月は飛躍のチャンスに恵まれる。特に人気運はサイコーの伸びを暗示している。

★総合運

きちんとした性格で端正さと緊張感をもっているが、どこかに豊かな包容力を感じさせる。

たとえ自分の調子が悪くても、細かい気くばりで、周囲の人たちのために華やかなムードを作ろうとする努力を怠らない。彼女がいると雰囲気がなごむアッタカーイ存在だ。

★運命グラフ

昭和60年は、社会運、実力運とも多少、見えがくれしているが、61年、62年になると、両方の運がともにかなり上昇してくる。仕事で実力を発揮できるのももうすぐだ。来年になると花開く感じ。来年になるのが待ち遠しい。

61年の2月から8月にかけて、人気運と社会運が連続的に上がってきているので、仕事に関する人気もグングン上がってくるのが予想される。

ただし、8月、9月は要注意。ちょっとした油断や中だるみが、人気運にかなり影響をおよぼすことになりそう。仕事が順調に軌道に乗っているからといって慢心は禁物だ。

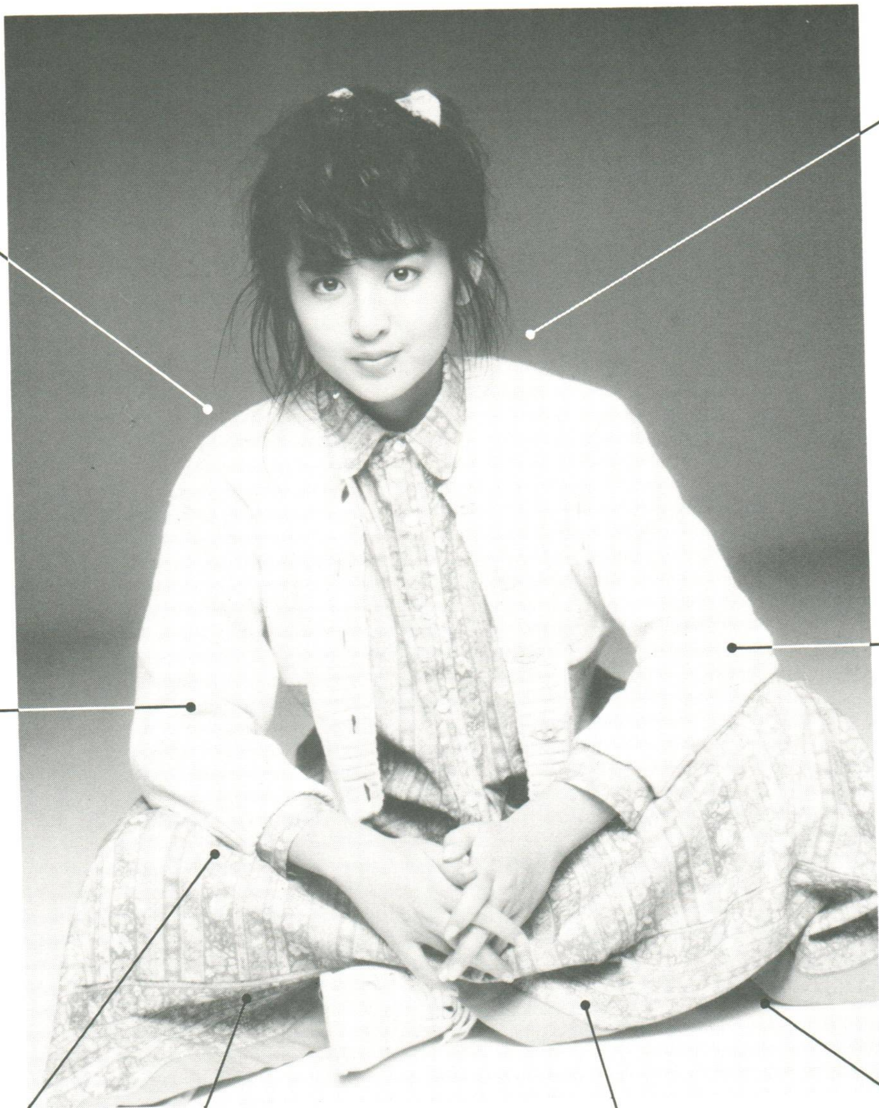
64年から66年の間は、やや一定期を迎える。現状維持というところだが、この間に十分に力を蓄えておけば、この時期をのりこえた67年、68年には、人気が再浮上して、より大きなチャンスに恵まれることになるので、うまく活用することが望まれる。

YUKI WORLD

こんな男のコが好き

純情YUKIがだ〜い好きな男のコのタイプはこれだ！

Yuki Saito



●お気にめすままファッション！
特にコレ！　という指定はないが、まず清潔第一、安全モットーの服装であること。３日前の食べこぼしのシミがこびりついたり、半径１m以内に近づくとにおうようでは困りもの。たとえヨレヨレのジーパンでも、カッコよく着こなすことが最大のポイントかつ必要十分条件。ヘアスタイルも規定はないが、ボサボサ頭やフケ性の君は要注意！

●根津甚八タイプのルックス度
かなりハンサムである必要はないが、ある程度までの人間的形態は欲しい。特にスポーツを愛好しているならばなおよい。根津甚八がタイプではあるが、ネクラな人は大っ嫌い。頭がよくて、縁の下の力もち的存在が大歓迎。多少なりとも背が高くて足が長ければ、いうことはないだろうネ。今、鏡を前にしている君、可能性はあると思うよ。

●情報最先端活用タイプ
音楽から流行まで詳しく知っているに限る。ただし、おしつけがましく情報を与えるのではなく、常にアドバイスとしてとどめておく必要有り。例えば、現在流行している曲目とか、おいしいお店の話とか、豊富かつ実現できそうなのが望ましい。そうでない、他人のうけうりみたいなタイプは、由貴の最も嫌う要素が多いのである。

●占星術、血液型でいくと
B型のおとめ座にフィットするのは、包容力があっておもいやりのあるO型か、明るく陽気ではあるが、ナントナクかげりのありそうなAB型もタイプとしてはあてはまる。星座では、謹厳実直のやぎ座か、思慮沈着冷静型でしまりやのおうし座があてはまる。特に難しいのは、優柔不断なてんびん座やみずがめ座等である。

●厳選されたデートコース
どちらかというとムードとフィーリング先行型であるから、子供っぽくチャカチャカ騒ぐよりは、落ち着いたムードで——が望ましい。待ち合わせの場所から食事までリードしていくに限る。間違っても"どこに行けばいい"は禁句である。海岸のドライブから高級レストランへ、貸し切りとはいわないが予約なんかしてあるともう感激!!

●さりげなくプレゼント
女のコというのは、とにもかくにも贈り物を非常に喜ぶものである。贈りものは何でもいいが（下品なものはパス）問題なのは渡す時のタイミングである。前もってプレゼントするからみたいなソブリはひかえたい。できるだけ、華麗に！　スピーディーに！　さわやかに！　がポイントである。そしてもちろん重大なのは心をこめたもの。

●自由気ままにさせてくれる人
B型特有の自由性が頭をもたげている由貴には、すべて束縛タイプは大の苦手。行動から服装にいたるまで由貴の個性を十分尊重タイプでないとダメ。おまけに包容力があってある程度のワガママも大きくうけとめてくれるような度量があるにこしたことはないが、あまりウナズキだけのパターンに終わると不信感をもってしまう。

●会話がルンルン弾む人
頭の回転の速い由貴には、のんびりベットリ態度の会話は好ましくない。フランクな会話の中に、たまに横文字を入れるぐらいの器用さは用意していてほしいものだ。映画の話題になったら、'60年代のイタリア映画とかディズニーの代表作ぐらいは知っておいて悔いはない。できるなら、メルヘンの一つや二つ語れるぐらいがよい。

YUKIの自己診断

由貴ってどんな性格の女のコなんだろう？　取材ノートからのメモ



Yuki Saito



●友達ワ・ン・サ・カの由貴

中Ⅰの時交通事故で入院した時も、病院にお見舞いに来た人の数が今までのトップだったと看護婦さんにいわれたぐらいだから、人気のほどがわかるよね。

教会にかよっているせいか友達も国際色豊かのようだ。昔の友達でウェンディという女のコが今ハワイにいて、撮影の時は、お互いの友情を確かめあったようだ。

●女のコっぽい家庭的なところ

ケーキを作ったり、お菓子を作ったりが大好きな由貴は、もちろん食べるのも好きだけど、ケーキなどの飾りつけがなによりの大得意。お菓子の本をめくって、とにかく作っちゃう。もち前の創造性を生かしながらかわいらしく飾りつけをして、「どうせなら好きな人に食べてもらいたい」というくらいだから味のほうも保証付き。

●あきれたはずかしがりや

母さんと一緒に出かけた時、電車のドアが閉まりかけていたものだから、由貴がダダッと先に駆けこんで母さんが電車にのるまでアンヨを出して待っていたんだって！　大した度胸と思いきや、とにかくはずかしくて、その後ずーっと真っ赤な顔で「はずかしい、はずかしい」とつぶやいていたそうだ。「本来ははずかしがりやなんですよ」と本人の弁。

●幼いころから左きき

由貴の左ききはみんなご存じのとおりなんだけど、食事の時だけは右ききにヘンシーン。というのも涙ぐましいほどの努力があったのだ。食事の時だけはどうしても父さんの真正面にすわるから、左手を使っていると、とにかく厳しくおこられたのだ。だからゴハンの時は右きき。ただ由貴お得意のマンガの時は左腕が大活躍するんだよ。

●思いこんだら徹底派

突然、夜におソウジがしたくなると、とにかく夜中3時になろうが4時になろうが、やってしまうようだ。ガラスもピカンピカンに光るまで磨きこんじゃうというからかなり徹底しているネ。夜中にゴソゴソはじめるものだから、家の人は、何事かと思って起き出すそうだけど、泥棒さんに間違われないように、今度からはお昼にね。

●純な由貴の信念

「ハレンチな質問はお答えしたくありません」ときっぱりいいきっちゃう彼女は、ブリッコでもなんでもなく、本当に純な証拠なのだヨ。そんな由貴の信念とは、絶対にぬがないということだそうだ。とにかく水着の撮影も、はじめイヤがったほど、人前に肌をさらしたくないとか。だから由貴のビキニ姿は絶対におがめそうにないナッ。残念。

●由貴の乙女チックワールド

映画の好みはビスコンティとか'60年代のイタリア映画というから、かなりロマンチック路線を愛好している。ここ数年見た映画も「ピーターパン」とか「眠れる森の美女」、それとディズニーの「ファンタジア」。そういえば由貴のかくイラスト画もかなり乙女チックなところがあるみたいだね。由貴の好みのタイプも乙女チックな路線かな？

●感受性100パーセント

取材して感じることは、常に反応が素早いところだ。時としてこちら側の質問を先に読んでいるぐらいの回転の速さがある。そして非常にナイーブな面と情感をたっぷり込めた言葉の中には、感受性のつよいところを感じさせる。それだけ女優さんには、もってこいの部分だから、大いに発揮してもらいたいね。ただ爪の皮をかむのは甘えんぼの証拠かな。

YUKI WORLD
思い出の一枚

高校2年の秋、金沢へ修学旅行、楽しかった思い出の数々

●アッという間に過ぎ去ってしまった由貴の高校時代の3年間、みんないい思い出として心のアルバムに刻みこまれています。それぞれに巣立っていく「卒業」、みんな元気でね——。



この写真は、おととしの秋(昭和58年)、高校2年にみんなで修学旅行に行ったときのものなんです。場所は金沢なんですけど、少し寒かったなァ。修学旅行で撮った写真は100枚ぐらいあるんですけど、その中でもこれがいちばん好きですね。ちょうどみんな（といっても私たち8人グループだけど）がとっても仲がよくて、団結していたときだったから、とても思い出深いですね。

　これは金沢のホテルに泊まったときのスナップなんだけど、食事が終わって、お部屋に集まって、ゲームしようかといってたら、急に親友のエリコがカメラをとり出したものだから、もうわれ先にというカンジでカメラの前に集まっちゃったんです。いかにも修学旅行でって、雰囲気があふれているでしょう。

　このときは、由貴もワリカシ今よりは短めのヘアスタイルだったから、今、この写真を初めて会った人に見せると、「エーッコレ?!」という返事が返ってきますね。この後、みんなでマクラ投げをしたり、夜中にまるくなってオバケの話をしたりしてたんです。そしたら、先生の足音が近づいてきたから、みんな急いでおフトンに飛び込んだんですけど、先生が、

　「もう寝たか?」って聞くから、「ハイッ!」てみんなで元気よく答えたんです。「起きてるじゃないか」ってしかられちゃいましたけど。でもそれからまた、夜遅くまで起きて、いろんな話をしていました。当然、翌朝、眠くてしかたがなかったのを覚えています。

おねぼう由貴は、いつも遅刻ギリギリセーフ

由貴の学校は共学でした。制服はあったけど、ブレザーだったから、CFの撮影のときまで、セーラー服にはなじみがなかったんですよ。だから、CF撮影のときセーラー服姿の自分を見て、なんか子供っぽいんじゃないかなって、とまどいました。

　制服以外では、学年によって、上バキのセンターの色がちがうんです。由貴の学年の色は赤。ほかは緑と青に分かれていましたね。

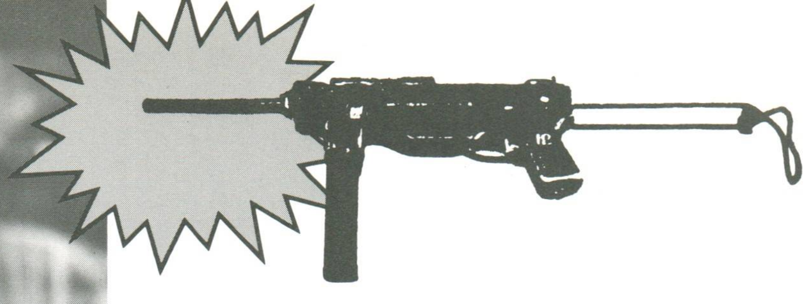
　校則は厳しすぎるというほうでもなかったから、マアマアほかの学校と変わりはなかったですよ。例えば、パーマは禁止、ヘアカラーはもってのほかってことはあったんですけどね。

　同じ学年でもともとブラウンの髪の毛の女のコがいたんです。あまりに目立つ色なので、先生が彼女に「ほかの人より目立つから、黒く染めなさい」って注意したんです。そしたら彼女は「いいえ、ヘアカラーは禁止されています!!」といったとか、いわなかったとか……。それ以外で厳しかったのはスカートだけのことくらい、だったと思いますよ。

　遅刻したときは職員室まで行って、許可証をもらってこなくてはいけないんですけど、由貴は何回かやっちゃいましたね。ともかく、いつも遅刻ギリギリセーフで登校してましたから。教室に先生が入ってこられたら、それでもうアウトになってしまうんですよね。だから、いつかロウカで由貴の前より3メートルぐらい先を行く先生を見つけたとき、「ムムッ、これはヤバイ、先生が先に教室のドアをあける前に!」と思って、「センセーイ」とそばまでかけよって、「おはようございます」と、元気よくペコンと頭を下げて先に教室に入りましたね。もちろんセーフ!! でも、さすがに2度目には通用しなくて、先生もかけ足で教室に入られるんです。そして「コラッ、斉藤、チコクだ」といわれちゃった。恥ずかし〜い。

　こうやってアッという間にすぎた由貴の高校時代の3年間。どれもみんないい思い出として心のアルバムに刻みこまれています。もちろんこの修学旅行のスナップも心のアルバムの中へ——。





Machinegun Interview
マシンガン・インタビュー

マシンガンのようにくりだす質問に思わず口に出た由貴のホンネ

●少年マガジン
マンガ雑誌（あまり少年マンガとか読まないから他の本と区別がつかないの）。
●カメラマン
野村誠一さん。
●電話
待つもの（とにかく10日間待ちつづけたことがあるから）。
●小泉今日子
キャ～ワイイ。
●時計
キライ。分刻みで区切られるの大キライ。
●赤
コワイ。血しか思いうかばないの。

●白
雪と由貴。
●テレビスタジオ
歩きにくい（コードが多い）。
●女優
自分（ウフッ）。
●マネージャー
かわいそう（チラッとマネージャー氏に目がいった）。
●恋人
思うようにいかない。
●キス
そのうち経験するでしょう。
●マニキュア
女のコのあこがれ（だと思うんですよ）。
●夏
いちばん好き（健康的だから）。
●スキャンダル
潜在的願望（ワハッ、ちょっといいすぎ）。
●ぬいぐるみ
もう恥ずかしくて持てない。
●MISSマガジン
やってよかった。
●CF
出てよかった。
●ドライブ
海辺の夕やけ。
●鈴木健二
近くの住人（というのも歩いて3分のところに住んでいて、朝、よくバス停のソバで会うのです）。
●ドライフラワー
ヨーロッパの古い建物（色が似てる）。
●食堂
オリエント急行（中で食事したい）。
●事典
ドラエモンのポッケ（何でもはいってる）。

●フォーカス
セコイ！
●DELUXEマガジン
ちょっと変わった雑誌。
●斉藤由貴
ヘンなコ。
●アイドル
人ごと。
●田中角栄
一度話してみたい。
●ホテル
泊まりたくない（キャンペーンでもうイヤというほど泊まったから）。
●コピーライター
スゴイ！
●女子大生
オールナイトフジ。
●林真理子
最近どうしたんだろう。
●手紙
読むまではすごくわくわくするけど、読んだあとで、ガッカリする。
●学校
休息の場。
●喫茶店
学校帰り。
●中島みゆき
でっかい人（とても私にはできないかもしれない）。
●竹下通り
若さゴチャマゼ、青春通り。
●アラン・ドロン
忘れかけた青春。
●オバケ
13日の金曜日。
●女性週刊誌
全部おんなじ。

YUKI WORLD

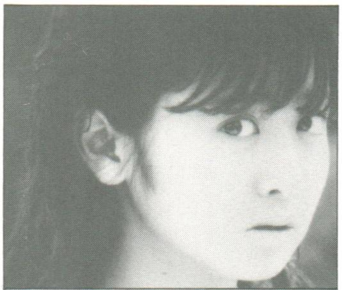


チカンにあった時、



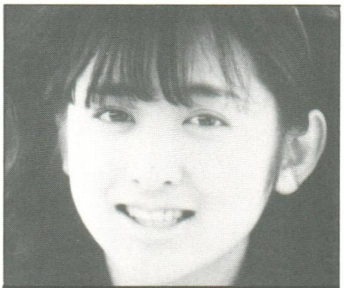
Qもしゴキブリをみかけたら、どうしちゃう？

Aゴッゴッゴキブリなんて、もう聞いただけで卒倒しちゃいますよ。ゴキブリが歩いたアトも通れないくらいコワイんです。ア〜ン、ヤダヤダヤーダ。



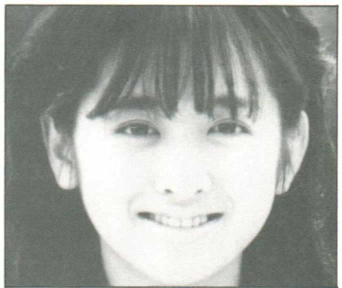
Q普段おうちにいる時は、何をしていることが多い？

Aなんだかんだやっているみたいだけど、なぜか台所をウロウロしているのが多いですね。別につまみ食いをするわけじゃないんだけど、台所にいるとホッとしちゃうのです。



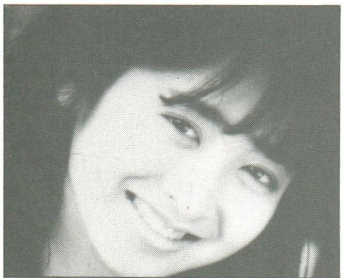
Qチカンにあったことはある？ 全国のチカンへ一声！

A もう電車なんかでは、しょっちゅうですね。小学校のころ、通りすがりにチカンにあった時、おっきい声でバカーッと叫んだけど、今はカワイソーといってやりたい。



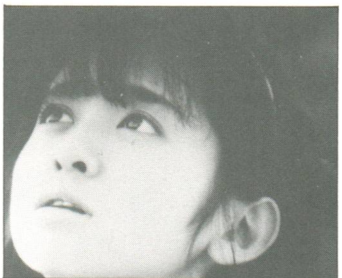
Q好きな科目とキライな科目は何？

A 好きなのは英語と国語、キライなのは数学で〜す。英語に関してはできれば先生になりたいと思っていましたから、マアマアはいけるんじゃないかと自分でも思うんだけどナァ。



Q仕事で監督におこられることある？

Aドラマの場合おこられましたね。本気であやまっているつもりなんですけど、〝ホントはそう思ってないでしょう〟ってチャカされたりするの。ワ〜ン、本気ですヨ〜！



Q力は強いほう？　それとも弱いほう？

Aエーッ！ 女のコに大胆な質問ですねェ。はっきりいって昔は腕ずもうなんかすると絶対勝っていました。今はかよわくなってすぐ負けちゃうけど——。ホントですよ。



Qもし超能力がもてるとしたら何が一番やりたい？

A瞬間移動ができたらもうサイコーですよ。たま〜に〝突然あそこへ行きたい〟とよく思うほうだから、そんな時、即できるでしょう。それにスッゴク便利だと思うんです。



Qマンガやイラストが得意だけど、自分を主人公にするとしたら？

Aウフッ、女剣士のヒロインにしちゃうでしょうね。そして、あらゆる剣士をなぎ倒していくような。でも普段は、着物を着て、お茶、お花をやっているおしとやかな女のコ像かな。



Q学校の制服はどんなの？ 規則は厳しい？

Aブレザーなんですよ。だからＣＦ撮影の時、セーラー服を着るのがはずかしかったワ。規則はパーマがダメで、あとは特に厳しくもなかったですね。



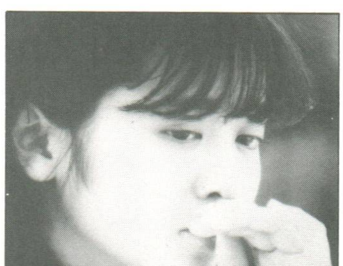
Q先生のあだ名でおもしろいのは？

A私たちのあいだでノーマンと呼ばれている先生がいたけど（先生、ゴメンナサイ）、とてもいい先生でしたね。普段はモサッとしているけど、おこる時は迫力ありましたねェ。



Q得意なスポーツはどんなスポーツ？

A水泳とスケート。海ではかなり遠くまでも泳げます。でも最近泳いでないですねェ。スケートは特にレッスンうけたわけじゃないけど滑れますよ。



Q日記にはどんなこと書くの？

A 今は忙しいから、ほとんど日程記みたいになっていますけど、以前はよくイラストとか今日の出来事、友達編なんて書いていました。日記というより感動記っぽいですよ。

バカーって叫んだの



Q&A

2月21日にリリースした「卒業」、ベストテンを驀進(ばくしん)中。新時代のスター・斉藤由貴の魅力は、その男のコを魅(ひ)きつけずにはおかない笑顔、哀愁を含んだ表情。そんな魅力あふれる由貴に迫った迫った、Q&A20問だよ。



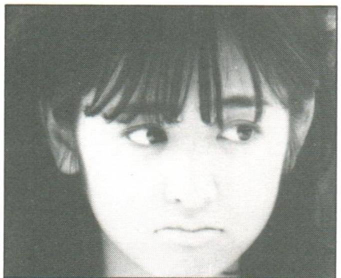
Q朝、寝起きはいいほう？悪いほう？

A7時ごろ起きるんですけど、夢の延長で目覚ましをとめちゃうことがあるんです。そんな時はもうタ～イヘン。〝シマッタ〟と起き上がるところも夢になっちゃうんですから。



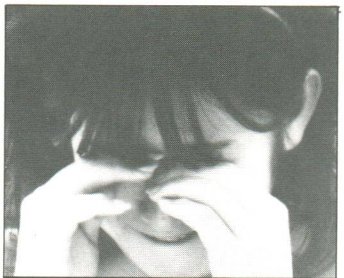
Q歌のスタッフってどんな人たち？

Aとっても優しくて、楽しい人ばっかりです。レッスン中に急にブレイクダンスを教えてくれたり、映画の話をしたり、スクランブルゲームでは、ディレクターに勝ったのデ～ス。



Q好きなことばは、どんなことば？

A外国の曲で「ケセラセラ」っていうのがあるんですけど、〝なるようになるサ〟という意味なんです。私もそういうふうになれればいいなァと思っているから、このコトバが好きですね。



Qいつからマンガをかくようになったの？

A小学校ぐらいからマンガをかくようになりましたけど、どちらかというとイラスト画のほうが好きですね。葉祥明さんの作品とかいいですね。そのうちイラスト集とか出版したい。



Q赤ちゃんがどうして生まれるかを知ったのはいつ？

Aそうですねェ。小6の時、保健体育の授業でそんなことをやった時は、もう知っていましたから、キット小4か5年生ぐらいの時でしょうかねえ。



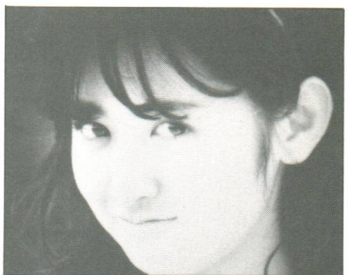
Qお父さんに対して一番思うことは？

A由貴が助手席にすわっていて、急ブレーキをかける時、何はともあれ必ず左手で由貴のことをかばってくれるのです。守られているという安心感と尊敬を感じています。



Qディスコにはじめて行ったのはいつ？

A高1の時、兄さんにつれられていったのが、最初だったと思う。踊ったりするのはスキだから、兄さんに踊りのことでアドバイスしたんですよ。



Q車をもつならどんなのがいい？

Aあまり車種はわからないけど、赤くて小さな車がいいですね。コマワリがきくし、由貴らしいでしょ？　ポルシェもいいけど、まずは免許をとってからかな。

YUKI WORLD

生いたち

●意思のはっきりした女のコだった

たんですが、なかなか三輪車ばなれができなくて、フツーの自転車に乗ったのは、かなりみんなより遅かったんです。

いとこの女のコと毎日、学校から帰って、特訓をやるんですが、もうそれは大変でした。年下のコに借りた自転車なんだけど、わりかし大きいんですよね。その荷台を押さえててもらって、ヨロヨロ右いったり、左にこけたり、とにかく泥まみれ、アザだらけでガンバったのです。夕日をあびて、小さい女のコ2人で、特訓する姿は、まさに根性ドラマですねエ。はじめはとっても怖くて、なんでみんなスイスイ乗れちゃうのに、由貴だけ不器用なんだろう、と涙がこぼれた時もあったけど、乗れるようになったとたん、あ～、カンタンじゃんと……このかわりよう！

ある日、乗れるようになってまだ2日目ぐらいの時だったかな、ウキウキ気分で乗りまわしていたら、前方5ｍぐらいに電柱が立ってるの。ちゃんとよけようとハンドルを変えたつもりではいたんだけど、なぜか、まともに、かなりまともに突っ込んじゃったんですよねエ。そばで見ていたいとこが〝ドジ〟と一声。ホントにドジッコの由貴でした。

●ミートソースかグラタンか

母さんとは、よくデパートに買いものにつれてってもらいましたね。とはいっても見るだけ。通常の親子連れとなんらかわりないパターンなんだけど、例によって例のごとく、由貴は「アレ買って！」とねだるほうじゃなかったから、「ワァ～、あれいいなァ」とか「これ欲しいなァ」と見るもの見るもの、つぶやきまくっていたみたいなの。そんな時、母さんは「いいわよ、買ってあげるわよ」といったあとに必ずつくコトバがあるんです。「いいコだったらネ」——と。このコトバのおかげで由貴はずいぶん考えました。〝う～ん、いいコというのは、どういう規準を指すのだろう。そういわれながらも、なおかつ、買ってもらえないというのは、由貴はいいコではないんじゃないだろうか〟——と。子供心に悩んではいたのですが、そのうち気づいたのです。〝なんだ、これは母さんの口グセなのだ〟——と。結局全部は買ってもらえませんでした。

デパートに行くと、必ず、お昼ごはんにぶつかります。レストランにはいって、由貴の注文するメニューはほとんど決まっているのですが、いつもミートソースかグラタンかの決定を出すのに迷いましたね。そのうち、ミートグラタンというメニューができてからは、由貴の迷いもなくなっちゃった。子供のころにお子様ランチを食べなかったせいか、最近はもっぱらお子様ランチ党なのデ～ス。

残すと、おこられていましたから、全部食べるように習慣がついていました。だからこうなのかな？　ウフッ。

●とにかく目立ったウサギさん

幼稚園でおゆうぎ会があった時のことなんですけど、由貴の組では、6人くらいでうさぎの役をやったのね。みんなせいぜい、うさぎのミミを画用紙でかたどったぐらいのお面しか作らなかったんだけど、なぜか由貴の場合は、母さんが徹夜して、手のこんだ洋服を作ってくれたんですよ。白いモコモコの洋服にちゃんとシッポまでついたものを着せられた時は、とぉ～ってもはずかしかったナァ。とにかく目立つし派手だし、最初それを着てみんなの前に出た時、友達みんな、目をまるくして、ギョッとしていましたよ、ホントに!!

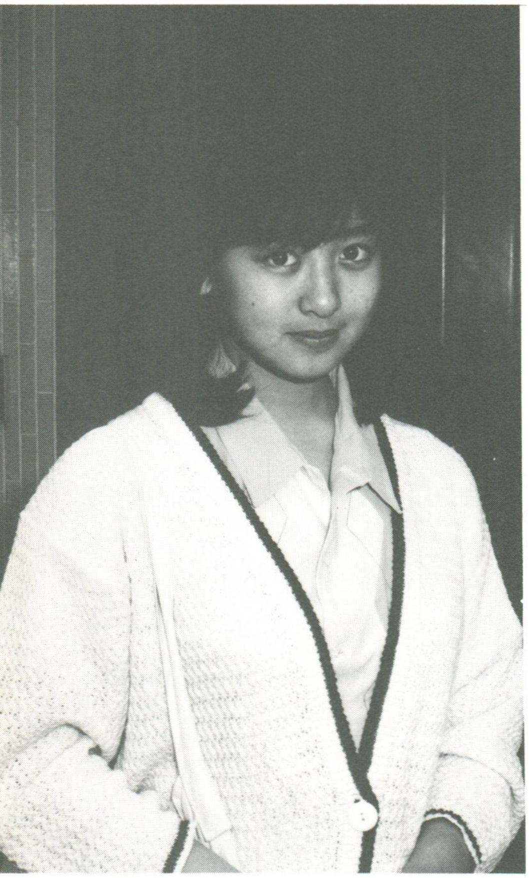
●ピアノの発表会

ピアノは6歳のころからやっていました。家に先生が来てくれて、教えてもらっていたんですけど、ちゃんと練習していましたね。

小学校3年生のころ、ピアノの発表会があって、白のブラウスと黒のスカートというお決まりの格好で出演したのです。でも舞台にたってもゼ～ンゼンあがりませんでしたね。確か〝牧場の朝〟を弾いたのですが、とっても調子がよくて、先生からもバラの花束をいただいたのです。

リハーサルやらなかったわりには、とってもうまくいったので、自分でも満足気分でした。（今の由貴とちょっとちがうなァ、歌ではとちるのに。）

▼高校の3年生の時、MISSマガジンに選ばれる直前の由貴。





▲こちらは高校の1年生の時。



▲中学校の3年生の時の由貴。



みんなが知りたい由貴の小さいころの思い出ばなし

●いつも貴(とうと)い女のコでありますようにと名づけられた由貴、ぼくらをワクワクさせてくれる刺激的な女のコ——YUKIは、小さいころにはどんな女のコだったんだろうか？　すごく気になるテーマだね、コレは。



▲小学校の３年生の時の由貴。

●由貴誕生の記録

聖なる女のコ由貴は、昭和41年9月10日午後9時20分、神奈川県横浜市に誕生したのです。体重３２００gの健康体で、おばさんにとりあげてもらいました。

由貴という名前は、いつも貴い女のコであるようにという意味でつけられたということです。

●非常にガンコなコ

とにかく幼いころから、ガンコな面は右に出るものがいないくらいのガンコさだったそうなのです。ある時、朝ごはんで由貴の嫌いなものが出たらしいんだけど、無理やり口につめこんでモグモグしていたの。ところがお昼になっても口をきこうとしないし、黙ったまんまだったから、母さんが心配して、口を開かせようとしたのね。そうしたら、朝食べたものがまだ口の中にはいっていたんですって。いくら嫌いなものだからといって、ここまでやるとは、いまだかつて信じられないですね。

それともう一つは、例えば、これが欲しいと思っても、絶対に口に出さなくて、「これいいなァ」とか「おいしそうだなァ」とつぶやくけど、「これ欲しいんでしょ？」と聞かれても、「うん」といわなかったんだって。人にものを頼まないし、「ちょうだい」っていわなかったらしいの。ふしぎなコだね。

●人形事件

いとこで同い年ぐらいの女のコがいたんですね。そのコと遊んでいる時に、そのコが人形を一つ貸してくれたんだけど、それだけじゃ満足しなくて、そのコがかかえている人形を次々にとっちゃったらしいのね。それでそのコが泣き出したことがあったらしいのだけど、とにかく、人のもっているものが、やたらと手に入れたくなる性分らしくて、欲しいと思ったら、手もとにおいておきたいほうだったの。そんな気持ち、よくわかるでしょう？

人形といえば、一番大切にしていたのがプラスチックでできた二頭身ぐらいの親指大の人形なんだけど、それも姉さんからこっそりとっちゃったものなの。とってもかわいくて大切にしていたわりには、すぐなくしちゃった。

●人見知りする女のコ

例えば、父さん母さん以外の人が、だっこしても、なるだけその人に体を近づけないように手でつっぱって顔を向けようとしないし、遠くにいる父さんや母さんの方を助けをもとめるような目で見ていたんだって。だからだっこした人はみんな、イヤな顔したんじゃないのかな。

●わたあめ大好き少女

おまつりの笛や太鼓の音を聞くと、もう胸がわくわくしました。父さんや母さんに手をひかれていく時も、由貴の頭ん中は、わたあめのことでいっぱいでしたね。普通、金魚すくいや、お面に興味をもつコは多いけど、そんなものに目もくれず、ただひたすら、わたあめ屋さんの前にかじりついていたのです。

小さな粒が、どうやったらあんなふうにフワフワになるのか、見ているだけでもアキませんでしたし、なにより、あのあま～く口の中でとろける時の感触が、今でも忘れられないんです。わたあめだ～い好き!!

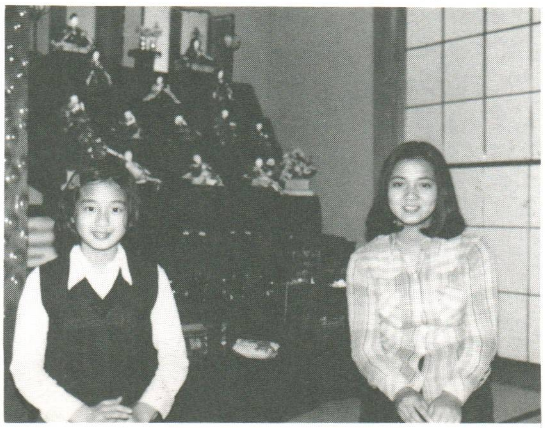
●自転車根性物語

4歳前ぐらいのころから三輪車には乗ってい



◀中学校の2年生の時の誕生日。

▼小学校の５年生の時に、お姉さんといっしょにパチリ。





▶七五三の時の晴れ着姿。

YUKI WORLD

YUKIの芸能界初体験

59年8月発行のデラマガ9号の巻頭46ページで鮮烈デビューしたMISSマガジン・グランプリの斉藤由貴。本人もビックリの大フィーバーぶり。CF、テレビ、レコードと、まさに初めての世界でのとまどい、失敗、そしてちょっといい話を聞いたのだ。





台、大阪、広島、名古屋、福岡とまわったんですが、札幌では雪が凍っちゃってて、ツルペタの靴をはいていたものだからすべらないようにかなりふんばって歩いていたら、翌日は筋肉痛で動くのがやっとでしたね。大変でしたよね。

キャンペーン先でかなり大勢の方が集まってくれて、ビックリしました。由貴がたちまちアイドル歌手になったみたい。歌う時、かなり心臓はドッキンコしていたけど、皆さんの顔を〝カボチャだ〟と思って歌いました。ごめんね。だってそうでも思わないと、あがっちゃってどうしようもないから――。

そのわりには、まちがえちゃったんですよね。2番目の歌詞を2フレーズから歌いはじめたりして、その時は、舌を出して、「まちがっちゃった」とブリッコしてしまった。ウフッ。こんなマチガイがしょっちゅうでしたね。

〝アイドルパンチ〟という番組に出演した時も、リハーサルでは一回もまちがえなかったし、他の新人の女のコに、「あがりません?」と聞かれて、「だいじょうぶです」とほほえんでいたのに、本番いきなりトチッちゃったものだから、みんなズコ～ンとズッコケちゃってたみたい。困っちゃうね、こんな由貴。それにしてもテレビスタジオってコードが多くて歩くのに苦労します。まるで工事現場みたいでしたよ。

●〝下手でため息の連続ですよ〟のテレビドラマのお話

はじめてのドラマ出演は「原島弁護士の愛と悲しみ」で、そのあとが「野球狂の詩（うた）」なのですが、オンエアでは逆になったみたいですね。それにしてもあまりの下手さかげんに、自分でもショックでした。はじめ、「野球～」がオンエアされた時は、テレビの前にデーンとすわっていたのですが、見ているうちに、ア然、ボー然、ガク然としちゃって、後半部分は、かなり小さくなって見ていました。

もっと普通に演技したつもりなのにギコチなかったり、声がうわずっていたり、もっと

もっと勉強しなきゃとつくづく思いました。だから「原島～」の時は、ビデオにとって、家族のだれもいない時にこっそりひとりだけで見たのです。

かなりの長時間苦労して撮影されたわりには、「これだけ?」と思うほどしかうつってなかったですね。たぶんこれは由貴が下手なせいかなと思っていたら、マネージャー氏いわく、「テレビドラマになるとかなりカットされるんだよ」という声をきいて一安心。

こんどテレビで自分の演技を見る時は、もっと堂々と見たいですね。そのためには努力かな!!

●由貴のイメージ

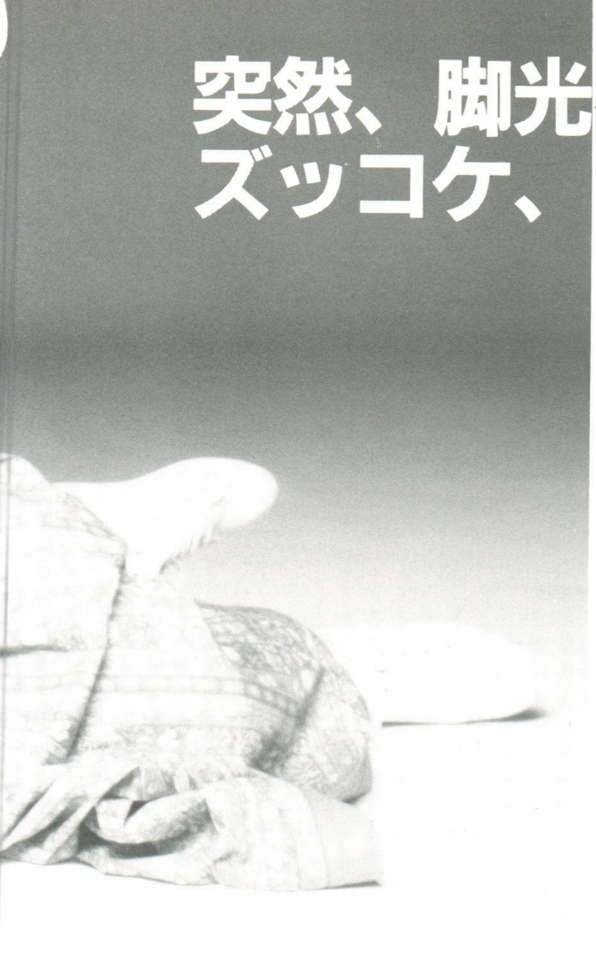
いろんなインタビューを受けて感じたことだけど、言葉というものは非常に重大なものだと思いましたね。例えば、こんなつもりでいったんじゃないのに、別の意味でうけとられちゃって、その記事が出たのをみて、〝えーっ〟とおどろいたこととかありますね。それと、キワドイ質問をされて、答えたくなかったりとか――。

グラビアの撮影の時も、そうなんです。由貴の考えてるイメージとかなり違うものができたりすると、なんだか期待をうらぎられたような気になりますね。イメージが大切なものってあるでしょ。だから、できるだけ由貴をわかってもらえるように努めるんです。そうでないと由貴のダミーができちゃうかもしれないし、それをそのまま、みんなに伝えたくないと思うから。

だからいつも、本当の由貴を見てほしいのです。



突然、脚光を浴びた由貴が経験したズッコケ、ビックリ体験の数々





◀カメラの前でキンチョーのせいか出だしをまちがえて、NG。でも、「ゴメンナサイ」のかわいい声が。



◀得意の左手で書くサインも、かなり慣れたみたいだ。由貴のサインをわれ先にとファンが続々つめかけた。



▲由貴の歌う〝卒業〟は各地で大評判。キミのクラスにも口ずさむコがいるゾ！

●芸能界ってこんなところ

一言でいうと本当に〝地味な世界〟ですね。ブラウン管で見ている、あの華々しい光景を作り出すのに、これだけたくさんの人たちが、丁寧にコツコツと日夜努力している姿があるんだなと思うと、これからテレビを見る姿勢が違ってきますね。

テレビは、昔から〝見て楽しい世界〟というふうに感じていましたから、裏でこれだけたいへんな苦労をしているんだよという部分なんか、全くわかりませんでしたね。

例えば、ほんのわずかなシーンを撮影するために、まる一日時間をかけたり、野外のシーンなんかでは、寒い時なんか、ドラムカンで火をたいて体をあたためたりしているんです。まるでどこかの工事現場か作業場に来ているみたいでしたね。ところが、それがフィルムになって出てくる時には、とても美しいシーンでそんな苦労なんか微塵もみせないでしょう。特にスタッフの人たちは、自分がカメラに収まるわけでもないし、本当に縁の下の力もちってカンジなのですよ。あの人たちのことは尊敬しますね。

●デラックスマガジンとの出会い

今でも、世界七不思議の一つだと由貴は思うんです。だってこんなどこにでもいるような普通の女のコが、突然、ホントにトツゼン巻頭46ページに載っちゃって、最初に感じたことは「なんだか悪いことしちゃったな」ということでしたね。

弟がデラマガのファンだったので、買ってきた本を由貴もたまにパラパラッとめくるぐらいだったのです。

ところが弟がイタズラで私の写真を出したことがキッカケで、あれよあれよという間に、こうして皆さんの前に顔を出すことになったんですよね。

キッカケというものはほんとに、どこでどうつながっているかわからないですね。でもその時でさえ、まさか巻頭であつかっていただけるなんて思ってもみませんでした。勇気あるデラマガへ感謝!!

●〝おもわずふきだしちゃった〟のCM出演

デラマガを見たスタッフの方が、〝コレでいこう〟ということで由貴が選ばれたと、これはあとから聞いた話なんですけどね。とにかくうれしかった反面、驚きましたねェ。本に出たというとまどいが醒めないうちにCFでしたから——。

撮影の時の監督さんがとてもまじめで、しかもヒョーキンな方なんです。木村草一さんという有名な方なんですが、準備がととのってリハーサルもおわってイザ本番、「アクション、スタート」の声がかかってまわりの空気がピーンとはりつめます。シーンとした中で、みんな、監督の〝カット〟の声をまだかな、まだかなとジーッと待っている時に、突然、「カーワイ～イ！」っていうものだから、みんなズコーッとずっこけちゃうのですよ。ホントに楽しい撮影でした。

もう一つのシーンでは、男のコたちが集団で走ってくる中に、ひとりたたずんでいるという場面があったのですが、男のコたちはみんな顔がうつらないから、由貴のことを笑わせよう、ふきださせようとおもしろい顔をするんです。最初は、ガマンしていたのですが、そのうちとうとうふきだしちゃいましたね。

だからテレビでオンエアされてる時の顔は、笑いすぎて、疲れた後の表情なんです。そういうふうには、感じなかったでしょ。

●はじめてのレコードキャンペーン

歌は、もともと嫌いじゃなかったし、よく歌うほうだったけど、マサカ、レコードを出すなんて、夢のようです、今でも——。

レコーディングの時は、ただ夢中になって歌っていましたから、あまり実感はわかなかったけど、レコードが完成して、由貴の顔がバーンと載ったシングルレコードを渡された時、〝コレだ〟と思いましたね。私の顔が何枚も全国のレコード店に並ぶのかと思うと、なんだか金太郎飴みたいになった気分でおかしかったナ。

はじめてキャンペーンというものを体験しましたけど、かなり大変でしたね。札幌、仙

YUKI WORLD

SIDE・3

●YUKI WORLD

PERNAL
文／伊地知寛江
イラスト／小槻さとし

●芸能界初体験
●生いたち
●Q＆A
●マシンガン・インタビュー
●思い出の一枚
●由貴の自己診断
●好きな男のコ
●占い
●ラブ・ストーリー
●夢



ここだけでしか読めない由貴のちょっといい話の数々――。



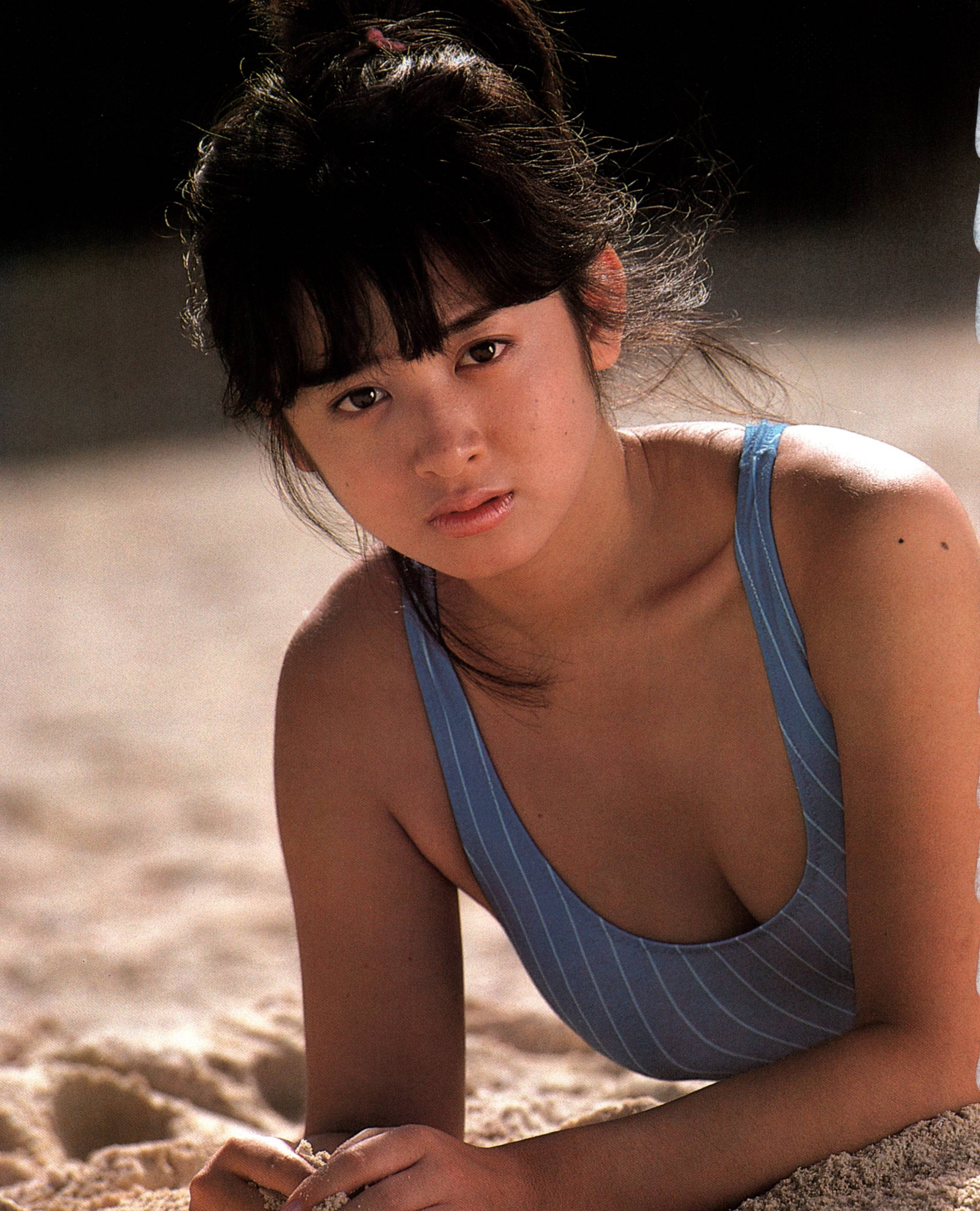


空港に着くなり、雨に降られちゃって、すぐに車にとびのったの。ゆれる車の中で、ぬれた髪をハンカチでふきながら外をながめるととても日本とは思えなくて外国にきたような気分になったのですよ。

沖縄の人たちの会話は、やはり解読不可能でわかりませんでした。しかし、しかしですよ、食べものはとってもおいしくて、中でも、豆腐チャンプルーといって、おトウフをお野菜とゴッチャにいためた料理があるのですが、それは由貴のお気に入りです。ウフッ。

おみやげ屋さんに行くと、黒い棒のようなものがあったので手でさわってたら、ナッナンナント、海ヘビの乾燥したものではないですか。ヒジョーにグロテスクですね。アーッ、ビックリした!!





着いたその日は、雨でした。明日の撮影が晴れますようにと、スタッフみんなでカラオケバーにくり出したのですが、それはもうたいへんなハシャギようで、マイクをとりあいながらのみんなの力唱に雨も圧倒されちゃって、次の日はしっかり晴れたのでした。

由貴の泊まったところは、昔、伊豆山中に落ちのびた武田の落人(おちうど)の庄屋屋敷がそのまま温泉宿になったところらしいのだけど、かなりシブイ造りでした。

由貴がおフロにはいってフト窓のところをみると、うす緑色したちっちゃなカエルがいるではないの。トーッテモちっちゃくて、ホントにとってもかわいかったの。そのカエルをながめてムチューになって遊んでいたら、由貴のぼせちゃった。ドジですねェ。

かなり山奥の温泉宿で、おフロのドアのカギなんかなかったけどなぜかゆるせちゃう。もう一度あの温泉宿に行きたいよー。それが由貴の感想なのデース。



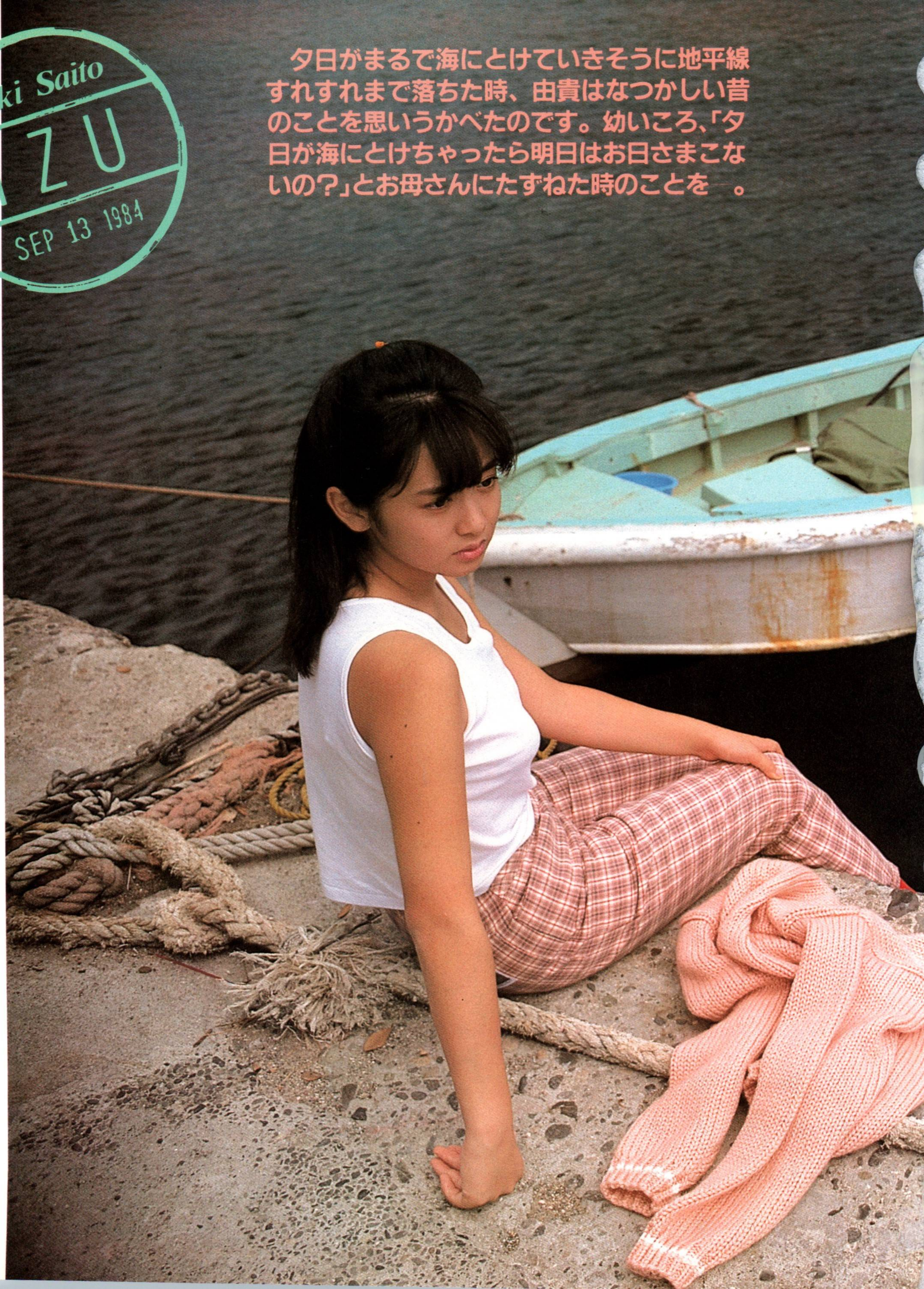




Yuki Saito

IZU

SEP 13 1984



夕日がまるで海にとけていきそうに地平線すれすれまで落ちた時、由貴はなつかしい昔のことを思いうかべたのです。幼いころ、「夕日が海にとけちゃったら明日はお日さまこないの?」とお母さんにたずねた時のことを—。





友達3人でよく鎌倉に遊びにいきました。夏は水着を持って日が落ちるまでバシャバシャ泳いだり、秋は、鮮やかに色づいた木々の景色をながめながら、「恋がしたいね」と友達同士うなずきあったり。

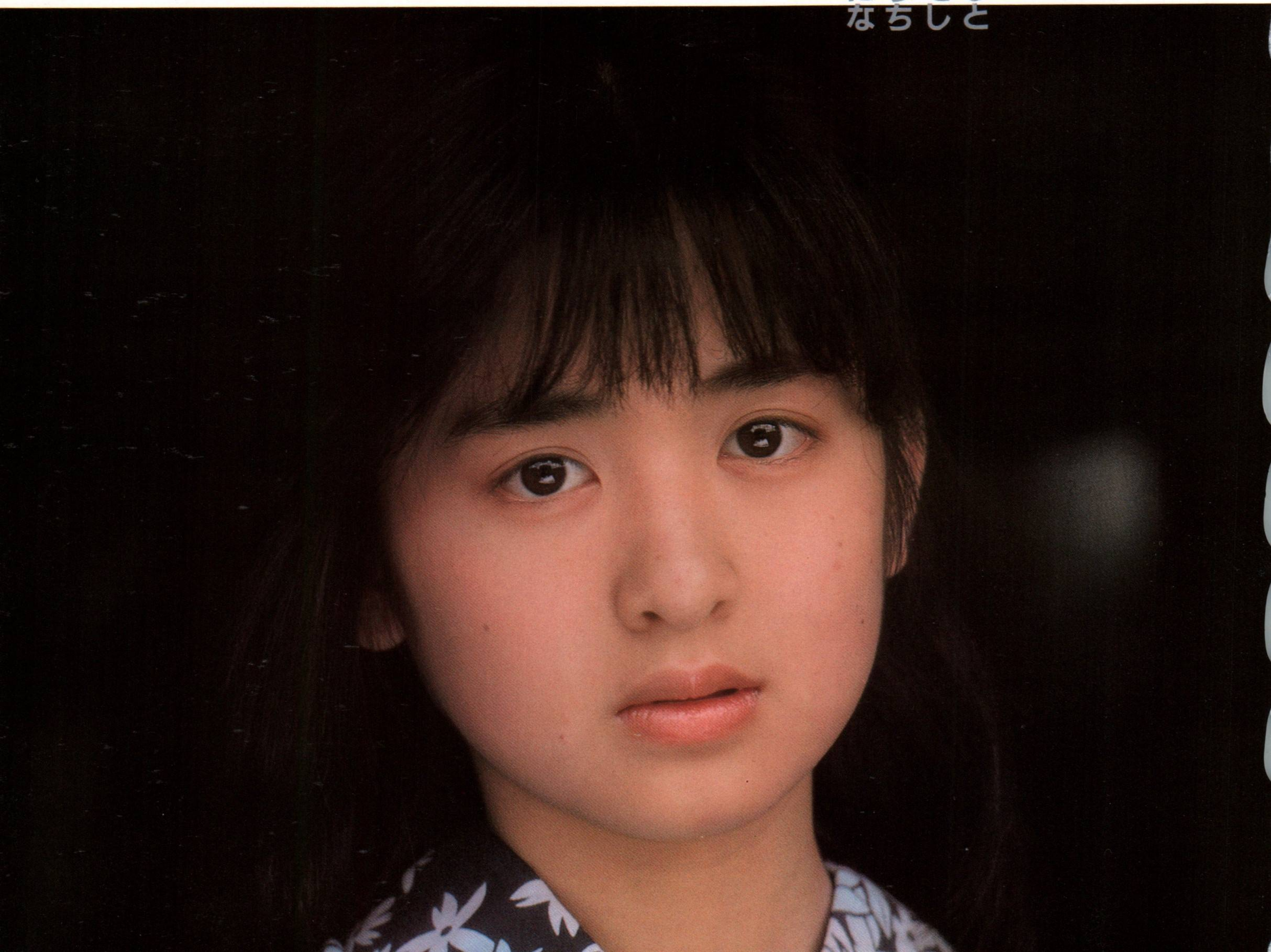
鎌倉でのはじめての撮影は最初おそば屋さんの前だったんですよ。1時間ぐらい同じところで撮っていたんだけど、その間中、ずっと由貴を遠くで見ていた高校2年生ぐらいの男のコたち、由貴のこと覚えているかしら？ あの時はスッゴクはずかしかったけど、でも、ずーっと見ていてくれてちょっぴりうれしかったような気もするの。ウフッ、ちょっと変ですね!! 鎌倉のあちこちで撮影しながら、由貴は昔からここに住んでいるような気がしたのでした。





Yuki Saito
KAMAKURA
AUG 15 1984

雨の8月にあじさい寺へ行きました。しとしと降る雨の中、お寺の境内で雨やどりをしながら、雨にぬれる木々の緑を見ているうちに、なぜか、自分が、恋をしている尼僧になった気がしたことがありました。





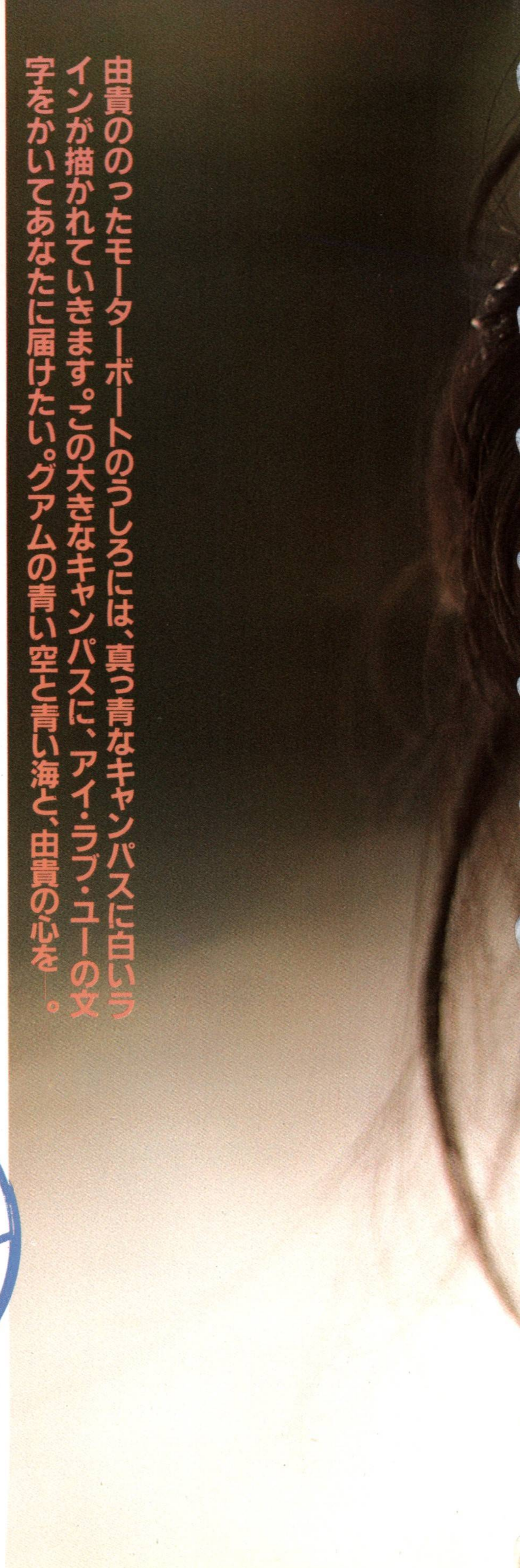


夕日を背にうけながら、海岸で、夕方ギリギリまで撮影したときもう由貴はクタクタだったのね。アー、こんな顔しちゃいけないなァと思いながらガンバッたんだけど。意外や意外、できた写真を見て思ったのが、疲れた時のほうがいい表情しているんですよね、ふしぎなことに。これはどうしてかなァとよく考えてみたんだけど、何もかも忘れてボーッとしている時、カラをとりのぞいた本心が出ちゃうんでしょうね、キット。だから素直なままの表情になるんだナァ。
もともと、女のコってカメラの前にたつことが好きなんじゃないのかな。知らず知らずのうちに、ニコッと笑ってみたり、ポーズをつくってみたり、女のコだからできちゃう特権なのかもしれないネ。









由貴ののったモーターボートのうしろには、真っ青なキャンパスに白いラインが描かれていきます。この大きなキャンパスに、アイ・ラブ・ユーの文字をかいてあなたに届けたい。グアムの青い空と青い海と、由貴の心を―。

Yuki Saito

GUAM

AUG 0 4 1984

SIDE・2

●紀行編







〝ほたるの光、まどの雪〟――卒業証書を手にして、高校の3年間にさよならをします。でも寂しいお別れはイヤ。今度また、あうための約束をしましょう。みんなの寄せ書きには全部、由貴のイラストを書きました。みんな、さようなら、離ればなれになっても、由貴のことを忘れないでください。いつかまたキット思い出を語り合いたいから。








小学校にまだはいったばかりのころ、理科のテストで、雪がとけると何になりますかという質問に、「春になります」と答えて笑われたのも、ついきのうのことのようです。のき下のつららがしずくとなって、ポタポタ音をたててとけていく、だんだんにぎやかな春が訪れてくるんですね。そしてみんな、それぞれの決めた道へ――。
別れではないのですね、新しい出発なのですね！







〝汽車を待つ君の　横で僕は　時計を気にしてる　季節はずれの　雪が降ってる〜〟

白い妖精（ようせい）たちが舞い降りるころになると、フト気づかないうちに口ずさんでいるのが、この曲なんです。思い出？　特にあるわけじゃないんだけど——。

〝なごり雪も降る時を知り——〟

中学のころだったかな、友達がギターを家から持ってきて、放課後になると、クラスのいちばん後ろで練習していたの。そのうち１人ふえ２人ふえて、気づいた時は、クラスの半分ぐらいが歌ってたような気がするんです。だから…。

〝今春がきて　君は　キレイになった　去年よりずっとキレイになった〟

本当のところ、由貴のイメージからいくとイルカではなくて、ビートルズなんですよ。

〝ミッシェル　マ　ベル　ソン　レ……〟

「ミッシェル」の曲をバックに、真っ白い雪の中を、コートを着て、黒のマフラーを頭からまいて、無表情でたたずむ、そんな雰囲気が似あってると思いませんか？

雪って、昔から好きなんです。自分の名前と同じだから、よけいそうなのかもしれないけど、限りなく白くて、まるでこの世のものではないような神秘的なところがあるでしょう。女性的で清潔で。でも、とっても冷たく引きはなす、そんな威厳のあるところがまたいいですねェ。

小さかった時、よく裸足（はだし）で雪の上を歩いて母さんにおこられたこともあったナァ。あの後、しもやけで、かなりアンヨがふくれちゃったような気がするけど、それでも気持ちよい冷たさだった、今はとてもできないけど。

雪の好きな理由はもう一つ、あった、あった。母さんが作ってくれたケーキは、いつも真っ白いホイップクリームでいっ〜ぱいなの。だから、窓から外をながめて、「アア、おいしそうだなァ」とみていたような気がする。というと、かなりくいしんぼうみたいにきこえるけど、ホントは、やっぱり、くいしんぼうだったんだわ。ウフッ、ナイショネ!!

Yuki Saito





クリスマスの夜は、必ず家族でパーティーをやります。飾りつけたモミの木のそばでみんな集まってケーキを食べたり、お話ししたり。パーンとクラッカーの音が部屋中にひびきわたって、にぎやかなパーティーも終わりを告げると、部屋に閉じこもって由貴だけのひとときを過ごします。この日のために用意した12本のろうそくをたてて、ひとつひとつの灯をながめながら、今年の反省を書きつらねていくのです。友達とケンカした日のこと、ちょっとだけやってしまったイタズラ、できそうもない約束をしたあの時のこと——。

窓にうつったろうそくの灯が、ゆらゆらゆれて、由貴のあやまちを優しそうに許してくれるみたいです。





まだ幼稚園の年少さんだったころのことなんだけど、みんなで、雪合戦をしていたのね。ジャンケンで負けた組と勝った組に分かれて雪まみれになりながらがんばっていたんだけど、そのうち由貴のまわりの雪がなくなりかけて、ところどころ、黒い土が顔を出しはじめていたの。それでも由貴は、夢中になってやっていたら、なげた雪を、まともに頭でうけた男のコが泣き出しちゃって、「どうしたの」と寄っていったら、ナント雪の中に石がはいってたらしくて、由貴、ヘマをしてしまった。

雪合戦っていうと、今でもその時のことを思い出しちゃうのです。みなさん、雪合戦の時は、くれぐれも、雪の点検を忘れずにネ!!

SIDE·1

●情趣編





なごり雪

窓からながめた雪の白さが、目にまぶしくとびこんできました。3月、私たちは一枚の卒業証書を手に、旅立っていくのです。寂しい言葉はかけないでください。胸までこみあげた涙を、やっとのみこんだばかりだから。寄せ書きには全部、由貴のイラストをかきこみました。離ればなれになっても、私のこと忘れないで——。

でも寂しいお別れはイヤ。また、いつかあえる日がくるのだから。

来年、雪をみたら、また思い出してください。私のことを——。

PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE

Yuki Saito



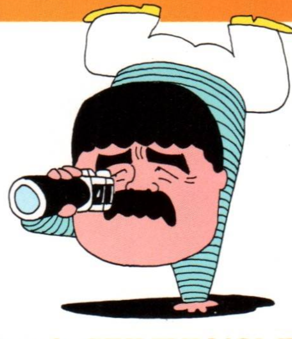


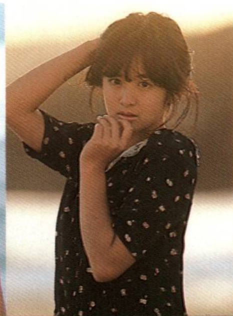
Photo by SEIICHI NOMURA

SIDE・1 情趣編
なごり雪のなかで見せた清冽な表情の数々
SIDE・2 紀行編
グアム、鎌倉、伊豆、沖縄の撮影グラフィティ
SIDE・3 YUKI WORLD
ここでしか読めない由貴の世界のすべて
SIDE・4 YUKI MEMORY
マガジンはこんな特集をした
SIDE・5 ハワイ編
ここでだけしか見られない由貴の水着

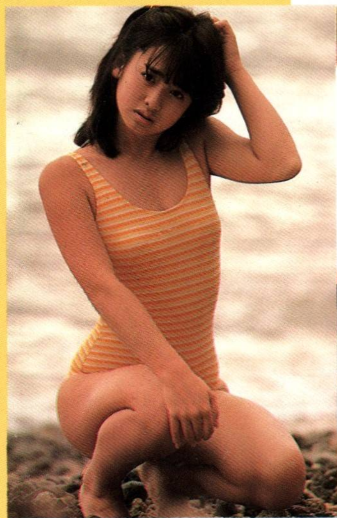
カバーストーリー

第3回MISSマガジン・グランプリ斉藤由貴が発表された'84年8月以来、まさに驚愕の由貴ブームです。あらゆる雑誌の表紙とグラビアを飾り、はては追跡取材、レコードはベストテンにと大混乱です。そこでマガジンしかできない由貴の世界のすべて。由貴には雪がよく似合う――なごり雪。ここでしか読めない由貴WORLD、ここでしか見られない由貴の鮮烈水着の数々をあなたにプレゼント。お楽しみください。





























斉藤由貴 PHOTOGRAPHIC・MAGAZINE　編集人――五十嵐隆夫　発行人――内田勝　デザイン――PENCIL STUDIO　発行所――株式会社講談社　〒112東京都文京区音羽2-12-21
電話　東京03-945-1111（大代表）振替　東京8-3930　印刷所――大日本印刷株式会社　製本所――株式会社国宝社　PRINTED IN JAPAN　ISBN4-06-101615-6(0)　定価1,300円
昭和60年4月23日第1刷発行　昭和61年12月15日第10刷発行　禁・無断転載　落丁本、乱丁本は、小社雑誌業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。


PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE
Yuki Saito
Photo by SEIICHI NOMURA

PHOTOGRAPHIC MAGAZINE

Yuki Saito





PHOTOGRAPHIC MAGAZINE

Yuki Saito

Photo by SEIICHI NOMURA




PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE
Yuki Saito

PHOTOGRAPHIC-MAGAZINE

Photo by Seiichi Nomura

Yuki Saito